

# 地域住民の視点を用いた 回遊ルートデザインによる まちの魅力増進・発信プロジェクト レポート [3か年まとめ]

盛岡市鉦屋町界隈をモデルに実施した取組をご紹介します。



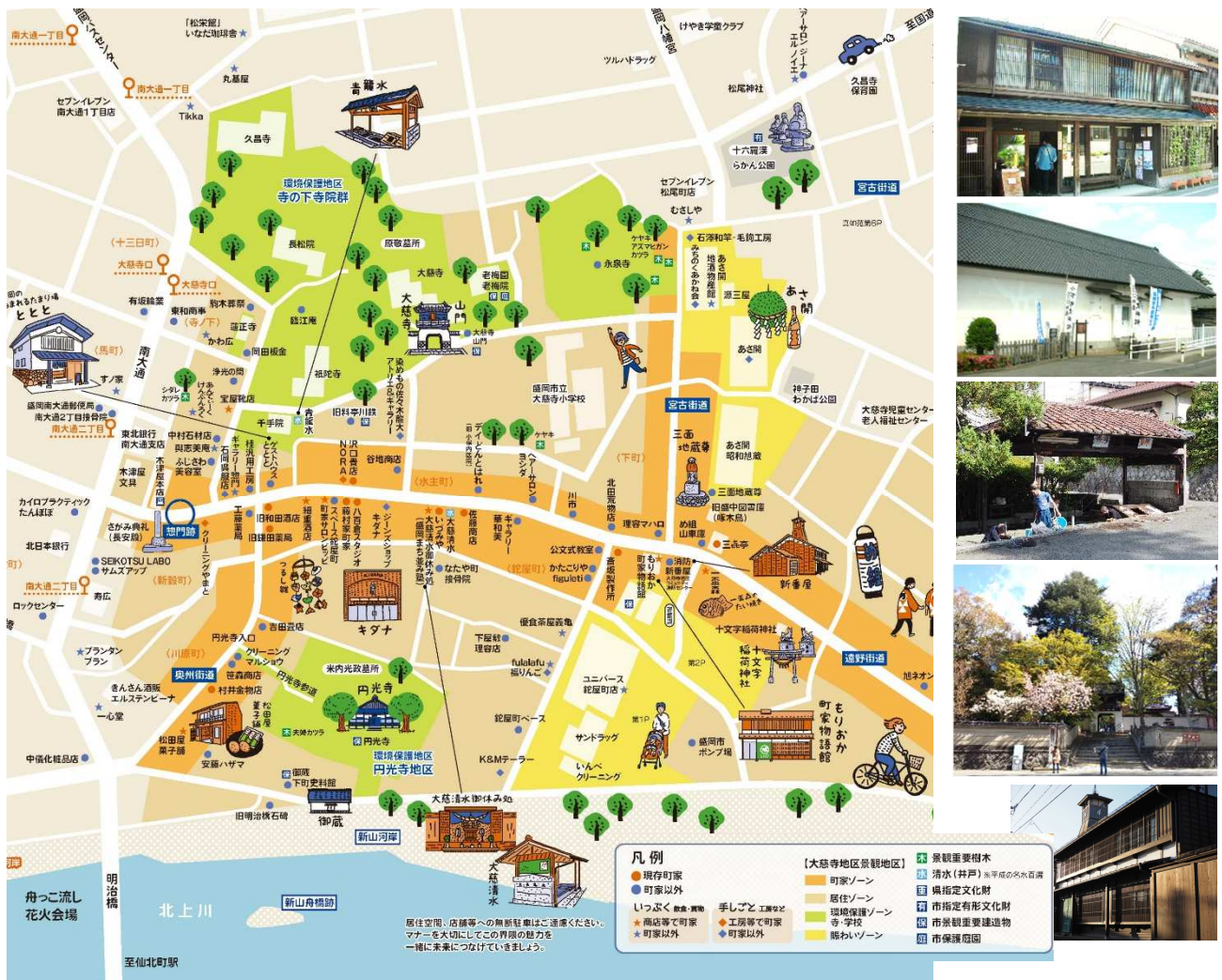
まちの人々のまちへの誇りを“見える化”することから、  
人々の表現力と発信力をともに引き出し合う  
地域のつながりのデザインにとりくみました

## プロジェクトレポートについて

岩手県盛岡市鉦屋町界隈をモデルに実施した「地域住民等の視点をういた回遊ルートの提案を通じたまちの文化や日常の魅力を伝える取組」をご紹介します。前半は、他地域でプロジェクトを実践する際の参考資料としてプロセスやポイントを、後半はプロジェクトを通じてまとめた地域の紹介資料を掲載しています。

## プロジェクト実施エリア:盛岡市大慈寺地区鉦屋町界隈について

江戸から明治時代にかけて、北上川の舟運拠点・街道が交わる交通の要所、城下町の玄関口として栄えた地域です。四季折々の自然・風土が育んだ清水、旧街道に沿って商家であった盛岡町家、酒蔵、寺院群、舟運時代の土蔵などの多くの歴史的建造物が人々の暮らしの中に息づき、地区の一部が景観地区に指定されています。歴史的な建物とまち並みが保存活用され、義理人情味あふれる人々がいきいきと暮らし、城下町の情緒風情と暮らしの文化を今に残しながら、地域ならではの佇まいを醸し出している貴重な地域です。



※「ばらり鉦屋町マップ」(発行:2023年度: 特定非営利活動法人盛岡まち並み塾)より

### ◆プロジェクトメンバーとなる地域活動団体

◎主催: 特定非営利活動法人盛岡まち並み塾

2003年任意団体発足から2017年法人化し、盛岡市鉦屋町界隈を拠点に歴史的なまち並み及び建築物等と暮らしの文化を次世代に継承するため、地域住民と共に、その保存・活用を通じて、まちづくりや景観形成等の推進を図る活動に関する事業を行い、地域の歴史・文化の向上と活性化、観光の振興に寄与することを目的として活動しています。

◎協力: もりおかワカものプロジェクト

“楽しみながら盛岡を元気にするプロジェクト”として、盛岡市鉦屋町界隈を活動拠点に集う、学生と社会人の有志の集いです。

「鉦屋町界隈の歴史的な街並み」「暮らし文化」「義理人情厚い人々との繋がり」等のもりおか暮らしの魅力を発見・発信する活動をしています。

◆このプロジェクトは盛岡市市民協働推進事業補助事業(テーマ設定型: 地域と連携したまちの文化と日常の魅力を伝えるための取組)の採択を受け、「地域住民の視点をういた回遊ルートデザインによるまちの魅力増進・発信事業」として盛岡市都市戦略室との協働で実施しました。令和5年度から7年度の3年間にわたる取組です。

ニューヨークタイムズ紙「2023年行くべき52カ所」に盛岡市が選出されたことを受け、まちの文化と日常の魅力を地域や市民と共に発信することにより選ばれる都市から選ばれ続ける都市へ変化していくことを目指すものです。

<地域住民の視点を用いた回遊ルートデザインによるまちの魅力増進・発信プロジェクト>

背景と目的

盛岡ブランドの構成要素「自然と暮らしの物語」の魅力である多数の盛岡町家と歴史的な街並みを有する鉾屋町界隈は、豊富な地域資源の中に人々の暮らしがいきづく地域です。豊富な地域資源の回遊性を高めることで地域の魅力・価値の増進ならびに発信力をより一層高めることができると考えました。鉾屋町・大慈寺町界隈をモデルとして、地域住民等の視点を用いた回遊ルートの提案を通じたまちの有形・無形の価値と魅力を暮らしや良さとともに可視化し多様な手段で発信することで、もりおかの魅力向上および発信力向上の一助となることを目指す取組です。

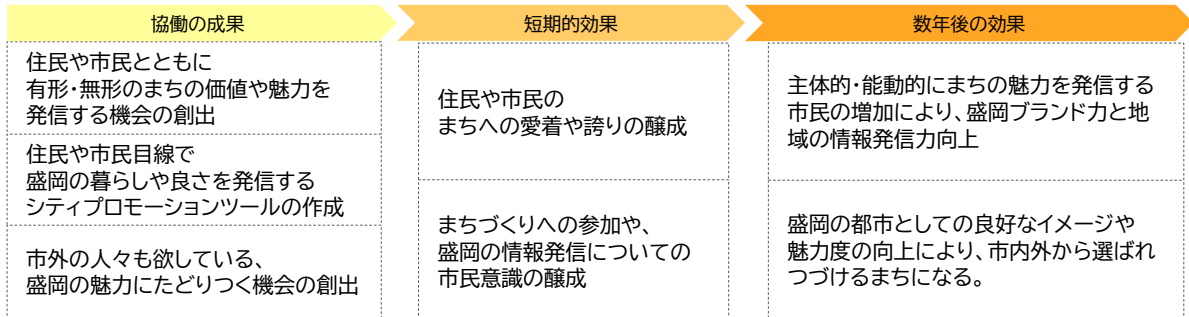
取組内容／まちの文化と日常の魅力を伝える取組

地域回遊ルートをつくり、市内外（公共文化施設等）で配布活用するためのマップパンフレットを作成し、地域住民の地域でのお勧めポイントやエピソードの紹介とプロジェクトコンテンツやプロセスを特設ウェブページと町家施設ギャラリーで紹介、さらに、他地域で同様の活動に取り組むうえで参考資料となるようプロジェクトレポートを作成しました。地域の人々がすでに持っているまちへの誇りや思いを可視化し、まちに暮らす人々の顔が見える取り組みを発信することで、まちづくりへの参加や情報発信についての住民や市民の意識醸成の輪が広がることを期待しました。1-2年目は主に地域外への情報発信を目的としたコンテンツ作成（散策ルート、音声コンテンツ、ウェブ、パンフレットなど）、3年目は地域内向けの情報発信と新たな主体意識の醸成を目的とした体験コンテンツ（「まち探訪&交流会」）を作成しました。

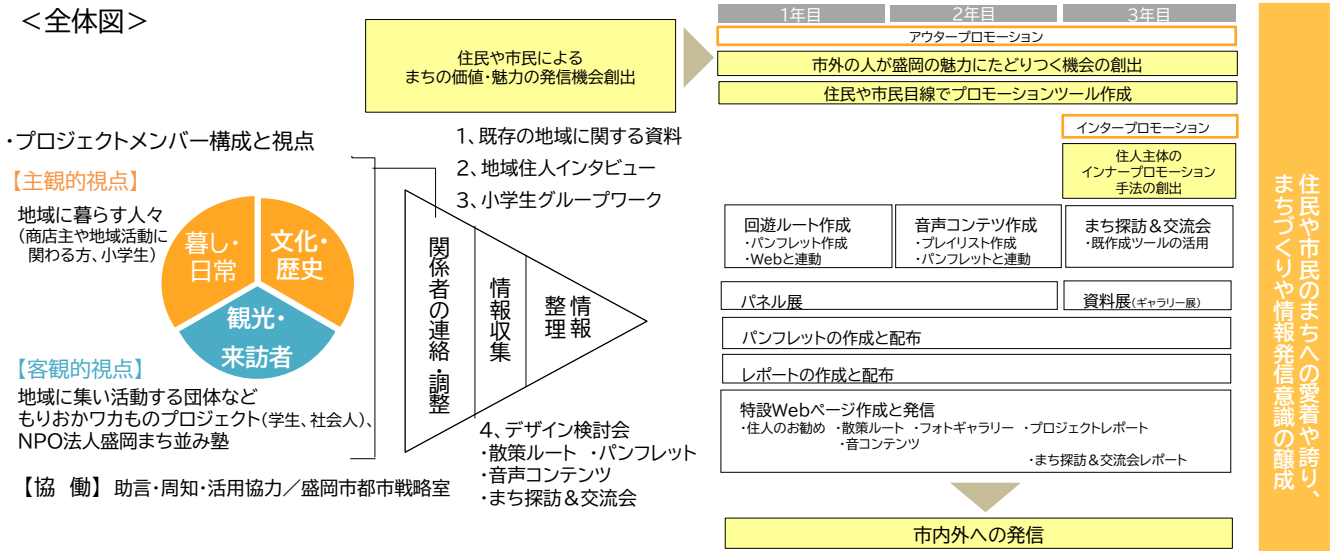
実施内容

地域に暮らす方々のインタビューや小学生の総合的な学習でのグループワークで、まちの価値や魅力のリサーチを行い、地域活動団体「もりおかワカものプロジェクト」協力によるコンテンツ設計検討を実施、情報収集整理と全体の連絡調整を盛岡まち並み塾が務めました。そして、取組への助言や周知、成果物の活用を盛岡市都市戦略室に協力していただき実施しました。

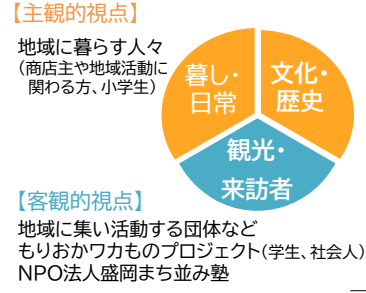
<目指すもの>



<全体図>



・プロジェクトメンバー構成と視点



【協働】助言・周知・活用協力／盛岡市都市戦略室

主体的・能動的にまちの魅力を発信する市民の増加・盛岡の魅力の向上・発信力の向上

# プロジェクトの流れ 実施する際のポイント

<1年目>

## 1 地域関係者の連絡調整

### ◆ プロジェクトの周知と協力呼びかけ

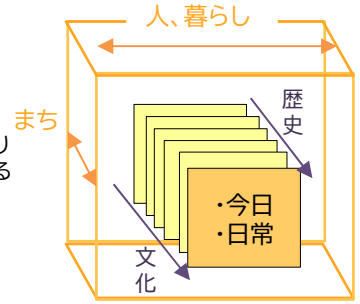
まず始めに取り掛かるのは、地域へプロジェクト実施についての周知と協力呼びかけです。町内会や町内回覧板での広い周知に加え、日頃から交流のある方々にも個別に実施予告を行いました。

### ◆ プロジェクトメンバー構成とメンバー集め

- ・まちは人々の暮らしからできています。まちに暮らす人々に焦点を当て、インタビューを軸に「まちの文化と日常の魅力」をリサーチします。そして、バランス良い視点で地域を紐解く必要があります。地域を主観的・客観的2視点で見つめ、[日常と暮らし][文化と歴史][観光・来訪者視点]を意識して情報収集しました。
- ・プロジェクトを地域の多くの方に認識してもらう事は大切なことなので、地域でよく知られている住人の方から協力のお声がけをしました。地域役員、地域活動に関わる方、ご商売などで日頃から来訪者にまち案内する機会がある方、さらに近年移住や開業した方等。(5名-10名程度)
- ・子ども達のまちづくり教育や地域学習の機会として、小学校の「総合的な学習の時間」の授業でコラボレーション協力をお願いしました。(高学年1クラス程度)
- ・客観的視点を担う部分は、地域に通い集う活動団体の皆さんに協力をお願いしました。(団体から5名程度)

### ○ まち=人、暮らしの営み

「今日」の積み重ねが「歴史」となり  
「日常」の積み重ねが「文化」となる  
「人々の暮らし営み」の重なりが「まち」になる



### ○ プロジェクトメンバーと視点

#### 【主観的視点】

地域に暮らす人々  
(店主、地域活動に関わる方、小学生)

#### 【客観的視点】

地域に集い活動する団体  
もりおかわかものプロジェクト(学生、社会人)、  
NPO法人盛岡まち並み塾



### ○ プロジェクトメンバー構成とリサーチ方法

視点	要素	属性	リサーチ方法
主観	・日常と暮らし ・文化と歴史	住人：町内会、 店主、地域行 事関係、小学校	・インタビュー ・グループワーク
客観	・観光 ・来訪者視点	地域活動団体	・検討会 ・街歩きリサーチ

## 2 地域資源についての資料集め

### ◆ 盛岡市のホームページから調べる (以下のキーワードなどで)

「盛岡ブランド」「盛岡市の景観重要樹木」「盛岡市の景観重要建造物と保存建造物」「指定文化財」「盛岡市都市景観賞」「盛岡市歴史的風致維持向上計画」「地区計画」「景観地区」「盛岡の先人たち」「盛岡市町名由来記について」など

### ◆ 地域情報紙媒体：地域紹介パンフレットやチラシ、地図や観光マップ、学校などが発行した記念誌 など

※地域紹介パンフレット「わたしのまちの『宝物』ガイドマップ-わたしのまちの『宝物』発見ブック&シート」  
(発行：2021年度：特定非営利活動法人盛岡まち並み塾法人盛岡まち並み塾)より

※「ぶらり鉈屋町マップ」  
(発行：2023年度：特定非営利活動法人盛岡まち並み塾)より

### 3 地域住人インタビュー／令和5年7月～9月実施

#### ◆ インタビューにご協力いただいた地域の方々 12名 (40代～80代)

- ・長年ご商売をされている方 (酒屋、呉服屋、理容店)
- ・近年、地域に移住や開業をした方 (ゲストハウス、藍染工房、町家食堂)
- ・地域活動や伝統行事に関わる方 (町内会、交通指導隊、消防、「舟っこ流し」)
- ・イベントなどで町案内をされている方
- ・歴史施設の管理に携わる方(下町史料館御蔵) など ※重複あり

#### ◆ 聞き取りのポイント・質問事項

まちのお勧め情報とともに、個人のルーツを聞き取ることを大切にしました。まちに暮らし始めたきっかけや、地域の活動に関わるきっかけなどを探ることで、[まちの魅力の背景＝ルーツ]を紐解くヒントが得られると考えました。

- ・自己紹介／居住歴や移住の背景
- ・地域での暮らしや活動で大切にしていることや喜び
- ・まちの魅力／お気に入りやお勧め、自慢、思い出
- ・第三者にどのように普段まちを案内しているか (ルートなど)
- ・変わらずにこれからも残って欲しいまちのコトガラ など



地域活動団体「もりおかワカものプロジェクト」の皆さんにも協力いただき、和気あいあいと会話が弾みました。活動でよく知る地域の皆さんの初めて知る一面も多く、感動いっぱい。

#### ● インタビューで得られた内容 (一部ご紹介します。)

まちの魅力、自慢				まちのお気に入りやお勧め			
井戸が2つ (盛岡三清水の内2つ 平成の名水百選)	お寺 9つもある	原敬・米内光政 (2人の総理大臣 お墓がある)	「御蔵」 (下町史料館) 江戸時代の蔵	町家の街並みに 見える 岩手山の風景	曲がりくねった道 (街道) や裏道	昔からある 沢山の樹木	大慈寺 参道・自然
盛岡町家の街並み 安心感・落ち着く	「木津屋」 江戸時代から 見事な佇まい	やっぱり川の近くから 「舟っこ流し」	四季折々の 自然・行事	「細重酒店」 町家空間で 「もっきり」は感動	「かわ広」の てんむすが 美味しいよ	青龍水の ベンチ	羅漢公園 石造の不思議空間 乗割桜も珍しい
十字稲荷神社 300年地域で守る	人情 活動などを手 伝ってくれる	御蔵や井戸 地域の人達が 管理に一生懸命	付かず離れずの 人との距離感	道幅の狭さ コミュニケーション をとりやすい	静かな環境が ものづくりに適してる	もりおか 町家物語館	神子田朝市 ひつつみ汁
人が 面白い	やっぱり 暮らしがよいね	スーパーや学校 が近くて便利	盛岡八幡宮やバスセンター 紺屋町や菜園など 歩いていける近さ	新しい小洒落た お店がある通りも	川原が好きだね 子どもの頃の 遊び場だったよ	大慈寺小学校 校庭からの眺め 懐かしいね	小道に 三面地藏

普段のまち案内の仕方の参考例

初めにまちの成り立ちや歴史をお話してみたら、興味がありそうな方にはさらにお勧めスポットをお伝えします。まずは「大慈清水」、そして「大慈寺」、寺筋の鳥の塀をゆらゆらたどって「青龍水」で水を飲んで潤すと良いですよ、と伝えます。時間があれば「惣門」、「木津屋」→「円光寺」へ。さらに、もっと時間があれば「御蔵」まで。あとは「ユニバース」で買い物。

食堂の主人

まちの案内人さん

Aコース：所要時間30分：[大慈寺(原敬) → あさ開 → 羅漢公園 → 三き亭・め組の消防番屋 → もりおか町家物語館 → 大慈清水御休み処]

Bコース：所要時間40～90分※御蔵を見学する場合  
：[大慈清水 → 大慈寺 → 寺の下寺院群 → 木津屋 → 惣門跡 → 円光寺 → 御蔵(下町史料館) → 新山河岸 → ↓  
[↑ ← 盛岡町家が並ぶ通り ← 岩手山が見えるスポット ← め組消防番屋 ← もりおか町家物語館 ← ユニバース裏側を經由

Cコース：所要時間2時間40分～3時間：Aコース+Bコースを全て周る

ゲストハウスオーナー

神子田朝市が休みの月曜日は、朝食を求めて周辺地域まで宿のゲストの皆さんとよく朝散歩へ出かけます。最近のコースは以下。  
朝のコース：[青龍水 → 大慈寺 → 永泉寺(樹木を見て) → 羅漢公園(十六羅漢) → 盛岡八幡宮 → 盛岡バスセンター内の福田パン → ↓  
[鉈屋町に戻ってくる ← ← 桜山の「リーベ」で朝食” or “中津川・紺屋町の「深草」前の川原で川を眺めながら朝食”

#### ● 参考：「盛岡まち並み塾」会員に聞いた鉈屋町境界の魅力

「曲がりくねった道に見える岩手山」「道」「清水」「町家の風景」「大慈寺」「細重酒店」「大慈寺小学校や大慈寺の自然」  
「職住一体の暮らし方」「隣近所のつかずはなれずな距離感」など 地域住人の方々のインタビュー結果と同様の傾向でした。

#### まちの回遊ルートデザイン的设计に活かす主なキーワードや視点

<p>【歴史・文化】</p> <p>井戸(清水)、お寺(大慈寺、円光寺)、御蔵(舟運の歴史)、 曲がりくねった狭い道(街道)、惣門跡、城下の入り口、 歴史ある建物、原敬と米内光政、昔からある樹木、 め組消防番屋、大慈清水御休み処、もりおか町家物語館 など</p>	<p>【日常・暮らし】</p> <p>景色／岩手山が見える、盛岡町家の街並み、川と川原、 自然、四季、行事、「細重酒店」のもっきり、神子田朝市 暮らしが、利便性、人、人の良さ、人との程良い距離感 食事処やお店、周辺地域との歩ける近さ、ものづくり、朝と夜時間帯 環境、空間、風景、空気感／癒し、安心感、懐かしさ、新しさ など</p>
<p>【視点】／エリアを分けて、代表的な地域資源(スポット)から、まちの成り立ち歴史、まちの過ごし方、周辺地域も一緒に楽しむ、 など</p>	

とても貴重な、まちの皆さんのインタビュー内容は「まちの回遊ルートデザイン」パンフレットの設計に活かすだけではなく、インタビューそのものを紹介する企画として地域の人々に焦点をあてた「パネル展」を実施し、プロジェクト特設ウェブページでも紹介しています。※令和6年度は、7名にインタビューを実施しパネル展でご紹介しました。

## 4 ルートデザイン検討会／令和5年8月～11月実施（全5回：8月10日、9月10日、9月23日、10月22日、11月28日）

### ◆ まちの回遊ルートをデザインする

「もりおかわかものプロジェクト」5～6名（社会人：建築・福祉・まちづくり系、学生）のメンバーで、住人の皆さんから収集した情報や、実際にまちを歩いてリサーチして得た情報、そして、観光パンフレットや書籍やウェブを参考にして、ルート設計とパンフレット設計について検討しました。豊富な地域資源に、一部ではなくまんべんなく巡り合えるような“まちの繋ぎ方”を考えていきました。そして、特に大切にしたいことは「暮らしと観光の共存」という視点です。まちに暮らす人々と来訪者がともに豊かな時間を過ごすために必要な情報の取捨選択を、丁寧にやることを意識しました。



### ● 検討会で出合った内容／ルートデザインとアウトプットの設計の方向性

#### ◎ 来訪者にとって、あると嬉しい情報

- ・やっぱり飲食や買い物・休める場所の情報は欲しいね。歩いていて少しおなか为空いたり、休憩したい時の情報があると嬉しい
- ・史跡や町名由来版など、まちの成り立ちや歴史がわかる指標は必要だね
- ・だいたい45分～60分程度の散策時間が基本ルートとしては丁度よいのでは

#### ◎ 実際にまちを歩いて感じた発見

- ・やっぱり自然が気持ちいい。自然（植物や樹木、北上川河原など）を巡ればおのずと寺筋、川筋などを歩いてエリアを一周することができる。
- ・朝の魅力、夜の魅力、時間毎の魅力がある  
夜の明かりが美しい／町家の格子戸からもれるあかりはきれい、この町ならではの風景。神社やお寺のライトアップが美しい。  
朝は日常の暮らしの風景が豊富／神子田朝市やお寺の鐘の音、地域の人達の活動（井戸掃除、通勤通学時間の交通指導員さん、店のオープン）など
- ・このまちは景観地区ということもあり、歴史的な建物が多いことはまちの個性であり魅力。保存建造物や都市景観賞受賞建築など時代を超えて建つ名建築が多い。
- ・まちの入口は一つではない。肴町、南大通り、八幡町、仙北町、神子田町など周辺地域との入口がある。南大通りだけでもエリアへの入り口は複数ある。バス亭も複数ある。



#### ◎ まちの魅力に触れる・楽しむために大切な視点【発信すべき情報とそうでない情報の見極めをする】

- ・まちの魅力である「暮らし」がこわれてはいけない。 → 来訪者が、住人の皆さんの暮らしの時間やリズムに習えるようなガイド情報があると良いのでは。  
／まちの活動が始まる時間と終わりの時間の目安（神社仏閣、井戸の利用時間、商店営業時間など）
- ・神社仏閣や史跡が沢山あるので「ご利益スポット」のような打ち出し方をするのはどうだろう  
→ 地蔵などは悲しい歴史が背景にあるものも多いことが、住人インタビューで分かった。慎重に扱うべきもの。[ご利益]という表現でくくるのは難しい。
- ・ものづくりをしている方や工房が意外と多いまちである。「工房巡り」のようなルートを作るか。  
→ 個人で製作している職人さんが多く、不特定多数への接客が難しいため来店予約が必要な場所もあり、難しさがある。しかし、職人さんが多いまちとして知ってもらえるのは良い。

#### ◎ まちを構成する要素や豊富な資源の紹介方法をどのようにするか【パンフレット紙媒体とwebページを使い分ける】

- ・豊富に地域資源があり、多様な切り口でルート設計ができる。しかし地図だけでは情報を全て網羅できない。スペースの使い方、情報を取捨選択する必要がある。
- パンフレットだけで完結せずに、資源をジャンル別（歴史建築物、史跡、自然や樹木、食事処、工房など）に情報整理し、webページで紹介する。
- ・まちの日常の魅力を伝えるための切り取り方が多様にある。[まちの1日][季節の風景と彩り12か月][名建築]  
→ webページへ、まちを時間の経過からみた写真ギャラリーを作成し表現する
- ・夜の明かりは美しい。  
→ しかし、暮らしの場であるまちの夜は、住人の皆さんの眠りの時間であり、来訪時間にはふさわしくない。webページの写真ギャラリーで夜の風景を紹介する。

#### ◎ ルートの名称はひと工夫をして、まちの魅力の楽しさを届ける

- ・地域資源が私たちにもたらしてくれる恩恵・与えてくれるものや、イメージを表現する（癒し、安心感、清々しさ など）
- ・楽しくなるような遊び心のあるリズムの良さを意識して／地域の人々のインタビューで出てくる言葉などからヒントを得て設計する。



### ● ルートデザイン／地域の皆さんから収集した情報からルート設計の軸を導き出す

- [井戸、寺と自然、舟運の歴史、町家と街並の街道、偉人] これらの地域資源がこのまちの歴史や文化の象徴的なものになる。
- エリアを分割してとらえる  
・初級 → 中級 → 上級  
・点（スポット） → 線（川筋・寺筋・道筋） → 空間（歴史街並み空間・暮らしの空間）  
・水と寺の自然 → 舟運の北上川と盛岡町家の街道 → 歴史を伝える建築物と史跡  
・エリアを地図で見た場合に[北] [南] [北と南のどちらも全て] の3つに収める  
・一日の時間、一日まるまる鉦屋町で過ごす、地域の人との出会いと交流
- キーワード  
・懐かしさと新しさ、まちは変化し更新している、歴史や知識をお知らせするだけでなく「まちの過ごし方や楽しみ方」の提案を → 歴史と店情報など織り交せる  
・このまちの魅力は、やはり「豊富な歴史地域資源と暮らしの共存」、暮らしても訪れても良いまち。  
・まちの魅力は「人」。まちの窓口のような人に出会える場所がわかると、安心だし、嬉しい。  
・まちがオープンしている時間、暮らしのリズム：飲食店やまちの施設（神社仏閣、井戸、朝市など）の利用可能時間や定休日情報

### 【ルート名とコンセプト】 5ルート：基本ルート3つ（パンフレットで紹介）、応用ルート2つ（webページで紹介）

- 基本ルート：① する～と初級編 「～四季折々の彩と清々しい空気に包まれ心洗われルート～ 寺院群の自然と二つの清水『平成の名水百選』を巡る」  
② ゆる～と中級編 「～歴史情緒と暮らしの香りにほっと心が温まるルート～ 舟運拠点の北上川筋と盛岡町家の街並み残る街道筋を巡る」  
③ ぐる～と上級編 「～懐かしも新しい時間の流れに誘われ心癒されルート～ 境界の歴史と暮らし文化のルーツを紐解く史跡や名建築を巡る」
- 応用ルート：① 「～朝から夕方までのまちに流れる時間を五感で体験～ 1日ずったりまちを満喫＆満腹メニュー」  
② 「～通いたくなる・帰りたいくなる“心のよどころ”～ 迎えてくれる人がいる、まちの入口のような場所」

### ● パンフレットデザイン／構成・掲載する情報

- ・タイトル：盛岡市鉦屋町界限魅力ガイド&散策ルートマップ ～歴史風情あふれる街並みに人々の暮らしがとけ合い新しい風が流れるまち～
- ・ルート情報は基本編に加え、応用編として、自分で情報を選択してルート設計できるコーナー（まちで一日を過ごすための施設営業情報）を掲載
- ・パンフレットを手にした人が、発見したことやまちのお勧め情報を記入する欄を設ける
- ・鉦屋町界限だけで完結せずに、周辺地域のちょっとした情報やアクセス情報があることにより「まちがつながる」、「歩いて楽しめるまち」を目指すことができる  
→ 中心市街地との距離感や近さがわかる目安（移動時間など）
- ・地域の人々のインタビュー記事や小学生の皆さんの声が見えるコーナー → 住人の方のイラスト入りまちのレビュー、地図にお勧め情報を吹き出しで掲載する
- ・プロジェクトの紹介と特設webページの情報（QRコード）

## 5 小学生グループワーク(GW)／令和5年11月実施

### ◆「盛岡市立大慈寺小学校」5年生総合的な学習の時間とのコラボレーション

まちのルートデザインに、地域の“一生活者”である小学生の皆さんの視点も取り入れたいと考えました。児童の皆さんは「総合的な学習の時間」で「郷土の文化や産業」を学ぶ過程で地域の方にまち歩きレクチャーを受けるとのことで、その学びの成果をルートデザインパンフレットに活かすことになりました。「今、私たちがまちづくりでできること」をテーマにグループワークを行い学びの振り返りとして「おすすめしたいまちの魅力・良いところ」を出し合ってもらいました。



・盛岡出身の首相原敬の菩提寺「大慈寺」近くに、“宝積”（見返りをもとめず人のために尽くす）の心を育てたいと、地域の強い要望で、原敬が亡くなった約10年後に建てられた大慈寺小学校。令和5年度5年生23名の皆さん。



・児童の皆さんが、まち歩きレクチャーを通じて興味を持った事柄は大きく5つでした。【歴史や文化】  
①偉人 ②お寺が多いこと ③舟運 ④清水 ⑤羅漢さん(羅漢公園)  
これらについて学びを深めた結果を、まちの魅力を伝えるオリジナルのお芝居にして、学習発表会で披露されていました。



・「総合的な学習」の振り返りの時間には、鉾屋町界隈のまちづくりの取組についてレクチャーを行った後、グループワークを行いました。

● グループワークの結果（一部ご紹介しします。）  
日常生活で訪れる場所、お店などの情報から主な内容。

#### おすすめしたいまちの魅力・良いところ【日常・暮らし】

- ・お寺（長松院）：猫が沢山いる
- ・十六羅漢公園：みんなが安心して過ごせる公園
- ・石沢釣具店：ここでしか作れない釣り竿を作っている
- ・舟っこ流し：1年に1度お盆にやる行事、盛岡では有名
- ・あさ開：色々なお酒を売っている、甘酒が美味しい。  
近くを通ると11月頃お酒のいいにおいがする
- ・みちのくあかね会：羊の毛を使ったマフラーなど作っている
- ・むさしや：おだんごがとてもおいしい
- ・プランタン：ケーキがおいしいよ
- ・ユニバース：食べ物や洗剤など便利なものが売っている
- ・フアラフ：ここのコーヒーが美味しい。いつも混んでる。

◎ 鉾屋町界隈のまちづくりについてのレクチャー  
まちの個性・魅力が輝いて、一人ひとりが自分らしく生き活きと暮らし続けるための活動や取組が「まちづくり」です。ポジティブな気持ちは連鎖し輪が広がっていきます。まずは自分自身がまちを知り「良いな・楽しいな」と思うことを共有したり、すでにある活動に参加することから始めましょう。



<2年目>

## 6 音声コンテンツデザイン検討会／令和6年7月～11月実施

◆ まちの魅力を紹介する音声コンテンツをデザインする／もりおかワカものプロジェクト  
1年目の取組資料と既存の音声ガイドやアプリ等を参考にして、音声コンテンツを設計しました。地域の人々の誇りであるまちの宝（清水、寺院、町家、大慈寺小学校、伝統行事等）にまつわる音風景、地域の人々の人柄を伝えるインタビュー音源、散策モデルルートの音声ガイドを作成しました。



● 話し合った内容／コンテンツデザイン・設計の方向性の軸を導き出す

- ◎ まちを散策する人にとっては、まち歩きの伴走をしてきて、まちでの時間が豊かになる
- ◎ まちを知らない人にとっては、まちに興味関心を抱くような予告や予習の資料になる
- ◎ まちを知っている人にとっては、まちの余韻を感じられ魅力の復習ができ、まちへの愛着が膨らむきっかけになる

- ・まちの「空間」・「人柄」・「時間」の魅力を届けること
- ・臨場感を最優先に考えたコンテンツ作りを目指す
- ・「もっとまちを知りたい・語りたい・行ってみたい・暮らしてみたい」等の行動のきっかけになる程良い情報量と質にする
- ・音声コンテンツとパンフレットの連動方法：一般化しているツールのYouTubeを採用し、複数音源をテーマ毎に収めたプレイリストを作成する。プレイリストのリンク先URLのQRコードを作成してパンフレットに掲載し、音声コンテンツにアクセスして視聴可能とする。
- ・YouTube各コンテンツサムネイル画像：音風景コンテンツは、まちの普遍的な要素を伝えるためシンプルな風景写真を採用する。インタビューコンテンツは、まちの人々の親しみある人柄を具現化するため、写真ではなくキャラクター化したイラストで表現する。



【5つのプレイリスト】 ①まちの音風景 ②住民インタビューと小学生の歌声 ③散策ルート解説音声ガイド3種  
・webページにプレイリスト掲載、パンフレットにリストへのアクセスQRコードを掲載

## 7 音声収録・編集／令和6年7月～12月実施

● まちの音風景（サウンドスケープ）の採集

清水のせせらぎ、寺院群の鐘の音や自然の鳥や虫の鳴き声、祭り行事などの日常や文化の音風景・環境音を現地に出向き録音しました。



● 地域の方々のインタビュー収録・音源編集

1・2年目に実施したインタビュー音源を編集してまちでの暮らし方や生き方のお手本になるヒント満載のコンテンツを作成しました。まちのお気に入り、思い出、伝統行事や活動のやりがいなどのお話など。地域の人々の温かさや活発さなど「人柄」も収めました。



● 「盛岡市立大慈寺小学校」6年生が校歌合唱

歳を重ねても母校の校歌を歌える先輩方の姿から校歌は世代を超えて愛郷心を育む“まちの宝”であると教わりました。令和6年度6年生合唱の校歌を収録しました。まちの人々の誇りである大慈寺小学校、そこで学ぶ子ども達、子ども達の美しい歌声も“まちの宝物”です。



● まちの案内人さんによるガイド解説の作成

生粋の地域人、花田陽子さんのご協力でご協力を散策ルート主要ポイントのガイド解説を作成しました。ご自身の足で集めた情報と知識量、地域愛、表現力に感服！花田さんのネイティブな盛岡弁が温かいオリジナル音声ガイドが完成しました。



## 8 完成した音声コンテンツをYouTubeと特設ウェブページに公開／令和7年1月実施

◆ もりおかワカものプロジェクトのYouTubeチャンネルにプレイリスト作成・公開

9 「まち探訪&交流会」の設計検討会／令和7年6-7月実施（全3回：6月16日、7月11日、7月21日）

◆ “自分のまちの推し活”を目指す、地域の人々の新たな出会いと交流の体験をデザインする

3年目は1・2年目の成果物（ルートマップ）を活用する段階へ。地域の人々を対象としたまちの魅力を再発見する「まち探訪」に加え、まちの魅力を発信・増進する自発的なアクション“自分のまちの推し活”の第一歩を後押しする「交流会（ワークショップ）」を実施。「もりおかワカものプロジェクト」の協力により企画構成、ルート選定、運営の細部の設計まで、参加者が楽しくまちを感じて活動できるような「体験のデザイン」を目指しました。



● 検討会で出合った内容／目的と方向性

◎参加される方々が自分が暮らす地域、自分自身の日々の暮らしや活動の価値や可能性を再認識し、主体性のスイッチを改めて押しあえる機会になる

- ・地域で暮らし、活動する仲間との出会いの機会とし、共通体験を通じてつながりを育む。＝参加者同士、参加者と探訪先の方々が知り合いになる。「始まる時間」になる。
- ・自分が暮らす地域の活動や暮らしの価値を再認識する機会にする。 歴史のものだけではなく現代のまちの魅力にも触れてもらう機会にする。
- ・「まち探訪」では、自分自身のまちの「推し活」の種を見つける。 “自分のまちの推し活”とは、自分が暮らすまちの魅力で、広げたり膨らませたりするための活動。
- ・「交流会」では、「まち探訪」で得た気づきを共有し、自分のまちの「推し活」のアクションを考える。アクションの最初の一步に向けて背中を押しあう。
- ・「推し活」のアクションは、「[個人の経験、所属組織の力を活かした]もの」。「[日常でできること、組織でできること]。小さなことでも大きなことでもOK！自分自身が主体となることができること、地域の魅力の増進や発信につながるアクションを見つけ出すこと。

◎「まち探訪」は「ガイドツアー」ではなく、地域の魅力のルーツの捉え方を体験する時間、人・文化と日常の暮らしなど多様な魅力に出会う予告編的位置づけにする

- ・地域の「人」の魅力に出会う： “まちの推し活”の先輩方の想いや活力に触れる。地域で暮らす・活動する人々のルーツに触れる。地域の人々の生きた「ことば」に触れる。
- ・地域の資源が生み出す季節感や自然を感じる：お盆の供養行事「舟っこ流し」、秋祭り、新酒の香り、[環境保護地区]寺院群の紅葉の彩り、井戸や北上川の水が流れる音 など
- ・地域の「これまで・現在・これから」のつながりを感じる： 歴史と成立ち、地域の特徴と資源、文化や歳時記、まちづくりの取組や地域活動、普段入る機会がなかなかない場所を訪ねる
- ・まちを知る視点を得る： まちの歴史を伝える史跡や案内板、まちの文化や歴史を伝える建物（文化財、景観重要建造物、都市景観賞）や景観重要樹木などのランドマーク

◎参加者の方々が楽しく参加できる演出を取り入れよう [交流を促す、興味・気づき・アイデアを引き出しやすくする仕掛け]

- ・「まち探訪」では、「まちのアンバサダー」的存在の、地域のことを詳しく知る先輩方にお話を聞く機会を設ける。 → 一盃森さんや大坊さんなど。
- ・「まち探訪」では、参加者から探訪先の方への質問の型を用意する（項目をあらかじめ決めておく）。 → 質問カード「カンペ」を用意する。参加者が読み上げる。
- ・「交流会」では、パンフレットに登場する地域の味を、茶菓として用意してみんなで味わう。 → 「青龍水」と「大慈清水」の飲み比べ、「むしや」のお茶餅、「かわ広」のてんむす
- ・「交流会」では、考えの整理を助けるための事例の紹介や、ワークシートを用意する  
→ ①「発見シート1：まち探訪～地域の魅力～」 ②発見シート2：地域で暮らす私の魅力 ③アクション宣言カード「わたしのまちの推し活始めの一步アクション宣言」

◎参加者がしっかりまちの魅力を感じられ、参加者と探訪先と交流を深められる適正規模の設計で運営する

- ・参加者集めについて： 町内回覧板での周知に加え、個別声掛けをベースとする。 → 組織のお偉いさんから「地域研修」のような位置づけで若手の方の参加を促してもらう / 老舗の後継者や企業の若手従業員、小学校先生、消防団、寺の職員さん、潜在的アクティブシニア、子育て経験者、近年移住されてきた方など、10～70代位の幅広い層の人材。
- ・参加者は開催ごとに新規参加を基本とするが、リピーター参加もOKとする。 ※ リピーター参加者は交流会では、「推し活」アクションプランのブラッシュアップもOKとする。
- ・実施規模： 合計3回開催する。毎回テーマを変えてルート設計する。 探訪先は毎回 6～8カ所程度×10～15分滞在を目安にする。 定員は毎回10名程度。
- ・開催時間は10時～15時。 午前中はオリエンテーションと「まち探訪」。お昼休憩を各自ではさみ、午後から「交流会」とする。 出発前、探訪先での記念撮影を行う。

● 「まち探訪」と「交流会」の構成を導き出す


【まち探訪ルート】

- 第1回 7月27日：「職人と「地域の場」をテーマに探訪。伝統行事「舟っこ流し」鉦屋町町内会舟っこ制作現場、ものづくりの工房など。  
①「K&Mテラ」 ②「十文字御休庵一盃森」 ③「藍染工房」 ④「モーニングカフェ佐藤青果店」 ⑤「ととと盛岡の泊まれるたまり場」 ⑥「鉦屋町町内会舟っこ造り@大慈寺」 など
- 第2回 9月20日：まちの歴史と魅力を体で“感じる”探訪。消防番屋の望楼に昇り、北上川舟運の歴史を伝える川沿い散歩など  
①「め組 山車庫」 ②「大慈寺地区コミュニティ消防センター」 ③「みちのくあかね会」 ④「細重酒店」 ⑤「御蔵 下町史料館」 ⑥「大慈清水御休み処」 ★北上川の河原 など
- 第3回 11月9日：歴史風情漂う街並みに人々の暮らしが溶け合い新しい風が流れるまち。紅葉が鮮やかな寺院群、酒蔵、旧料亭、盛岡町家など。  
①「十文字稲荷神社」 ②「酒蔵 あさ開」 ③「大慈寺」 ④「旧料亭川鉄」 ⑤「久昌寺」 ⑥盛岡町家の住まい「藤村家」 ★三面地藏尊など

【全体タイムスケジュール】オリエンテーション（20分）、まち探訪15分程度×6カ所程度ほか（90分+移動40分）、昼休憩（45分）、交流会（100分+休憩5分）

【前半：まち探訪の構成】盛岡市鉦屋町界隈のまちの魅力のルーツを探る まち歩きに出かけよう！

- オリエンテーションプログラム（パワーポイント資料）  
／・参加者紹介・地域のおさらい（歴史、地域資源、景観地区概要、地域の人々の暮らしと活動）  
まちづくりの歴史、地域循環図・プロジェクトの紹介（はじまり、目的、過年度の取組、3年度目の取組）  
・「まち探訪&交流会プログラム～地域と自己の価値を押し活にする～」(「まち探訪」の目的、まち探訪ルートマップ&タイムスケジュール、探訪でのミッション、質問カード一覧)
- 配布資料／「散策ルートマップ&タイムスケジュール」、「本日の目的」、パンフレット各種（『音声コンテンツ運動盛岡市鉦屋町界隈魅力ガイド&散策ルートマップ』、『盛岡町家』、『ぶらり鉦屋町マップ』、『鉦屋町界隈案内図』、『町家暮らし物語』、『わたしのまちの「宝物」ガイドマップ』、『わたしのまちの宝物発見シート&ブック』)
- 運営役割分担／解説者&タイムキーパー、レコーダー、カメラ、カンペ出し（探訪先質問カード）、安全管理

まち探訪&交流会 探訪先質問カード 2025.07.21 	<b>Q1、</b> こちらでどのようなことをされているか教えてください	<b>Q2、</b> 仕事や活動のきっかけ、始まりは？	
	<b>Q3、</b> 仕事、活動で、大切にしていることは？	<b>Q4、</b> 仕事、活動で、やりがいや魅力は何ですか？	<b>Q5、</b> 仕事、活動でこの地域ですることの魅力は？
	<b>Q6、</b> 地域のお気に入り、お勧めや、魅力は？	<b>Q7、</b> メッセージ、お誘い、参加機会はありますか？	

【後半：交流会の構成】わたしのまちの“推し活”をデザインする交流会ワークショップ

- 配布資料／「発見シート1：まち探訪～地域の魅力～」、  
「発見シート2：地域で暮らす私の（住む・活動する・働くなど）の魅力」、  
「わたしのまちの推し活 初めの一步アクション宣言カード」、  
「補助シート わたしのまちの推し活アクション設計メモ：もやもやポイントの整理」
- 構成／趣旨と段取りの確認 → まち探訪の感想を語り合う  
→ 「発見シート1」・「発見シート2」の記入 → 休憩（地域の味をいただく）  
→ 推し活アクションのヒント、事例の紹介  
→ 「推し活」アクション宣言カードの記入 → 一人ずつ発表&写真撮影
- その他／アクション宣言のアフターフォロー、連絡を取り合うなどつながりづくりを約束する

推し活アクションのヒント

1. 伝える・広める「情報発信」の推し活：見つける、撮る、書く、話す / あなたが「これだ！」と感じた鉦屋町の魅力を、あなた自身の視点で発信する活動。家族や職場、知人に伝える。SNS、広報活動など。
2. 深める・体験する「学びと探求」の推し活：訪ねる、調べる、体験する / あなたの興味や関心をもとに、鉦屋町の魅力のルーツや背景をさらに掘り下げる活動。商店や施設に通うなど。
3. 繋がる・動く「共創と実践」の推し活：参加する、協力する、企画する / 地域の仲間と連携したり、新たな活動のきっかけを作ったりする活動。既存の活動や行事に参加、飲み会の開催、企画の構想など。

## 取組1:地域回遊ルート(散策モデルルート)の作成 <1年目>

地域の人々のまちへの誇りと  
まちの魅力を可視化

内容：盛岡市鉦屋町界隈の豊富な地域資源の魅力をつなぐ散策モデルルートを、地域に暮らす人々の視点を用いて作成しました。

地域に暮らす人々の生きた視点、地域の人々のまちへの誇りを可視化して編集した情報には、説得力と信頼性とともにつ加価値が生まれると考えました。地域に暮らす方々のインタビュー、「大慈寺小学校」令和5年度5年生のグループワーク、地域活動団体「もりおかワカものプロジェクト」の協力により、5つのモデルルート（基本ルート3つ、応用ルート2つ）を作成しました。まちの魅力を予習や復習に、まちでの時間を豊かにするツールとして、特設ウェブページでの公開とパンフレットを作成して発信しました。

### 【基本ルート】

- ①する〜と初級編 「寺院群の自然と二つの清水『平成の名水百選』を巡る  
～四季折々の彩と清々しい空気に包まれ心洗われルート～」
- ②ゆる〜と中級編 「舟運拠点の北上川筋と盛岡町家の街並み残る街道筋を巡る  
～歴史情緒と暮らしの香りにほっと心が温まるルート～」
- ③ぐる〜と上級編 「界隈の歴史と暮らし文化のルーツを紐解く史跡や名建築を巡る  
～懐かしくも新しい時間の流れに誘われ心癒されルート～」

### 【応用ルート】

- ① 「～朝から夕方までのまちに流れる時間を五感で体験～  
1日ずったりまちを満喫&満腹メニュー」
- ② 「～通いたくなる・帰りたくなる“心のよりどころ”～  
迎えてくれる人がいる、まちの入口のような場所」



## 取組2:音声コンテンツの作成 <2年目>

内容：まちの文化と日常の魅力を“音声で伝える”コンテンツを作成し、YouTubeプレイリストにまとめました。

パンフレット「盛岡市鉦屋町界隈 魅力ガイド&散策ルートマップ」と連動して使用できる仕様になりました。

もりおかワカものプロジェクトのYouTubeチャンネル <https://www.youtube.com/@mowappu> 内に、5つのテーマのプレイリストを公開しました。パンフレットに掲載したQRコードの読取、特設ウェブページからも視聴が可能です。

### ○プレイリスト1：『盛岡市鉦屋町界隈まちの音風景』 サウンドスケープ音源 13コンテンツ

- ①「青龍水」の一番井戸のせせらぎ ②「大慈清水」の二番井戸から三番井戸のせせらぎ ③「千手院」に響く鳥のさえずり
- ④「大慈寺」に響く鳥のさえずりと虫の音 ⑤「祇陀寺」17時を告げる寺の鐘 ⑥「大慈寺」界隈に響く子どもたちが遊ぶ声や鳥の音
- ⑦ 藍染職人が染め物を洗いますぐ音 ⑧ 盛岡町家の吹抜けの屋根に降る雨音 ⑨ お盆の迎え火が燃える音 ⑩ お盆「黒川さんさ踊り」門付の音
- ⑪ お盆「舟っこ流し」の読経の音 ⑫ お盆「舟っこ流し」の舟が燃える音 ⑬ 盛岡秋祭り「め組」山車の太鼓の音

### ○プレイリスト2：『人からひととくまちの魅力のルーツ @もりおか市鉦屋町界隈』インタビューと小学生歌声 9コンテンツ

- ① 理容店の店主さん ② まちの案内人さん ③ 『盛岡市立大慈寺小学校』6年生の皆さんが合唱する校歌 ④ 『御蔵・下町史料館』の案内人さん
- ⑤ 「舟っこ流し」の鉦屋町の舟棟梁さん ⑥ 消防団の分団長さん ⑦ まちの案内人さん ⑧ 藍染工房の職人さん ⑨ もっさりを楽しめる酒屋・麴屋の女将さん

### ○プレイリスト3、4、5：『盛岡市鉦屋町界隈の魅力に出会う散策モデルルート』ガイド音声 16コンテンツ

イントロダクション、久昌寺、木津屋、惣門跡の碑、青龍水、大慈寺、大慈寺小学校、十六羅漢、あさ開、もりおか町家物語館、大慈清水、大慈清水御休み処、盛岡町家の特徴、鉦屋町の町名の由来、円光寺、御蔵・下町史料館 / 作・語り：花田 陽子 さん

- プレイリスト3：『ぐる〜と 上級編 界隈の歴史と暮らし文化のルーツを紐解く史跡や名建築を巡る  
～懐かしくも新しい時間の流れに誘われ心癒されルート～』
- プレイリスト4：『ゆる〜と 中級編 舟運拠点の北上川筋と盛岡町家の街並み残る街道筋を巡る  
～歴史情緒と暮らしの香りにほっと心が温まるルート～』
- プレイリスト5：『する〜と 初級編 寺院群の自然と二つの清水『平成の名水百選』を巡る  
～四季折々の彩りと清々しい空気に包まれ心洗われルート～』



### 取組3:パンフレットの作成・配布 <1~3年目>

「歴史風情あふれる街並みに人々の暮らしがとけ合い新しい風が流れるまち  
♪音声コンテンツ連動：盛岡市鉾屋町界限 魅力ガイド&散策ルートマップ」

内容：地域に暮らす人々の視点を用いて、まちのお勧めやまちへの誇りをつめ込んだ散策モデルルート、1日滞在する際のプラン等を掲載。  
2年目は、音声コンテンツを連動させてバージョンアップしました。

仕様：A4サイズ（折パンフレット4ページ）

作成部数：1・2年目は10,000部、3年目は11,000部

内容：○まちのレビュー「暮らしても訪れても良いまち

わたしが暮らす盛岡市鉾屋町界限お勧め&ここが好き♪

- マップ&ルート「盛岡市鉾屋町界限の魅力に出会う散策モデルルート」
- 「教えちゃいます！盛岡市鉾屋町界限の楽しみ方のヒント」
- 自由記入欄「教えたい♪私が見つけた！鉾屋町界限の魅力&マイルート」
- ◎音声コンテンツ/5タイトルYouTubeプレイリストに接続するQRコード掲載
  - ・『盛岡市鉾屋町界限の魅力に出会う散策モデルルート』
  - ：[上級編]、[中級編]、[初級編]
  - ・『盛岡市鉾屋町界限まちの音風景』
  - ・『人からひもとくまちの魅力のルーツ@もりおか市鉾屋町界限』

配布等：・市内外の公共施設や観光施設など約300カ所、  
特設ウェブページからデータダウンロード可能  
・「大慈清水御休み処」など区内施設や商店に設置



### まちの文化と日常の魅力を発信



### 取組4:特設ウェブページの作成・発信 <1~3年目>

「地域住民の視点を用いた回遊ルートデザインによる  
まちの魅力増進・発信事業 ウェブページ」

「特定非営利活動法人盛岡まち並み塾」のホームページ内に開設しました。

URL：https://www.machinamijuku.org/my-route-design

内容：

- プロジェクト概要とコンテンツ一覧
- まちのギャラリー
  - ・鉾屋町界限まちの一日を過ごす（イメージ）
  - ・鉾屋町界限まちの1年の風景
  - ・まちの暮らしと文化の歴史を継承する街並み建築
- インタビュー/わたしのまちのここがおススメ♪ここがステキ♪
- 回遊ルートデザイン制作風景/情報リサーチ、検討会
- まちの散策モデルルートの紹介/基本ルート3、応用ルート2
- パンフレットの紹介「盛岡市鉾屋町魅力ガイド&散策ルートマップ」
  - ・パンフレットデータダウンロードコーナー
  - ・パンフレットの特徴と使い方
  - ・パンフレット活用例（地域資源マップ：寺院・神社、史跡、景観・建築物、樹木などの自然、食事処）
- 「まち探訪&交流会」開催レポート 第1回、第2回、第3回 ※データダウンロード可
- プロジェクトレポート ※データダウンロード可
- その他取組/パネル展の紹介、ギャラリー展の紹介
- 新着情報



### 取組5:パネル展の開催 <1~2年目>

「まちの文化と日常の魅力を伝えるパネル展  
～人からひもとくまちの魅力のルーツ～@もりおか市鉾屋町界限」

内容：回遊ルートづくりの情報収集のために行った地域の方々のインタビューをもとにパネル資料を製作・展示。  
鉾屋町界限の魅力のルーツをひもとくインタビュー記事と、まちの活動や風景の写真を紹介しました。  
1年目は鉾屋町の盛岡町家「大慈清水御休み処」のギャラリースペースにて開催しました。  
2年目は1年目の会場に加えて、中心市街地の商業施設2カ所出張ミニ巡回展も開催しました。  
鉾屋町に足を運んだことのない市民や、市外からの来訪者に対するPRも兼ねた取組です。  
鉾屋町会場では写真スライド上映や、タブレットを使用した「まちの音風景」の音声展示も行いました。



2023年10月1日～10月31日 @大慈清水御休み処（盛岡市鉾屋町3-15） /来場者数：510人

2024年 8月10日～ 8月18日 @盛岡という星でベースステーション /来場者数：485人  
（盛岡市菜園1丁目8-15 パルクアベニュー・カワトク cube-II B1）

2024年10月 4日～11月 5日 @大慈清水御休み処（盛岡市鉾屋町3-15） /来場者数：510人

2024年11月15日～11月25日 @クロステラス盛岡ウエストプラザ（盛岡市盛岡市大通3丁目4-1） /来場者数：37,000人



## 取組6:「まち探訪&交流会」の開催 <3年目>

## 体験と気づき&想いとノウハウの共有

内容：地域に暮らす方や活動する方を対象としたインナープロモーション企画。自分が暮らす地域の“まちの推し活”を目指す取り組み。

「盛岡市鉦屋町界限魅力ガイド&散策ルートマップ」を活用して、地域の魅力を伝え育む“まちの推し活の先輩”と地域の魅力のルーツに出会う「まち探訪」を敢行。「交流会（ワークショップ）」では探訪での気づきを共有し、参加者自身が主体となってまちの魅力を発信する自分なりの“まちの推し活”の初めの一歩のアクションを考えました。身近にありながら立ち回らなかった場所、季節や自然、地域の活動や集いの場、歴史的建物や暮らし文化。知っているようで知らなかった「地域の人々の想い」に触れることで多様な角度から「まちの文化と日常の魅力」を体験する時間。まちの魅力の捉え方を学び、参加者同士や地域の方々と改めて深く知り合う貴重な機会となりました。

- 【第1回】2026年7月27日：参加者11名／学校、消防、寺院、呉服店の方など
- 【第2回】2026年9月20日：参加者10名／地域団体、移住者、地域企業の方など
- 【第3回】22026年11月9日：参加者15名／子育て経験者、地域企業、都市戦略室など

### ◆まち探訪での感想の(例)

街の景色と雰囲気の良い  
が威力。歩けばもっと山の  
発見があると思う

先輩方の熱意・熱量がすさまじい  
！若さや年齢は関係ないと思った。  
同じくらい地域に愛着をもちたい

歴史的な物から現代的  
なものまであり楽しいまち  
になるのでは♪

### ◆交流会での「わたしの推し活」アクション宣言(例)

- ★家族や職場の人にまちでの自分の楽しい体験を話す
- ★寺の魅力のアピールする
- ★企業のメルマガで地域の魅力を発信する
- ★子ども達と地域を結ぶ
- ★地域の行事に参加する
- ★移住を検討されている方に町の良さを伝える
- ★グッズの試作
- ★地域ラジオを構想
- ★地域食堂の実現に向けてできることから

オリエンテーション



まち探訪



交流会（ワークショップ）



## 取組7:「まち探訪&交流会」開催レポートの作成 <3年目>

内容：「まち探訪&交流会」の開催レポートを地域向けの活動速報として作成。

- 「まち探訪&交流会 第1回 開催レポート」 2025年8月発行
- 「まち探訪&交流会 第2回 開催レポート」 2025年10月発行
- 「まち探訪&交流会 第3回 開催レポート」 2025年12月発行

参加者の視点や体験・活動の記録を「地域の魅力を伝える資料」として編集し、当日参加できなかった方々ともその体験を共有（二次的な情報発信）することを目的としています。地区町内回覧版、「大慈清水御休み処」等で配布しました。  
※ 特設ウェブページからデータダウンロード可能です。



## 取組8:資料展(ギャラリー展)の開催 <3年目>

「まちの文化と日常の魅力を伝える、わたしのまちの“推し活”デザイン展@もりおか市鉦屋町界限」

住民が主体となりまちの魅力を増進・発信するための“まちの推し活”に取り組む活動資料を展示する企画展。「まち探訪&交流会」の企画設計実施プロセス、運営ノウハウ、活動レポートの公開。1-2年度に開催したパネル展の資料を再構成して展示。

- 会 期：2026年11月21日～12月21日 / 来場者数：240人
- 会 場：大慈清水御休み処（盛岡市鉦屋町3-115）
- 内 容：○ 探訪ルートマップ、オリエンテーションの資料、運営ツール、ワークシート
- 探訪先に関連する資料：「雲を紡ぐでつながろうプロジェクト」、「旧和田酒店」改修建築模型など
- 「まち探訪&交流会 第1回～第3回」探訪先取材記録、交流会実施記録
- 「鉦屋町界限の魅力のルーツをひもとくインタビュー記事」再編集資料
- “わたしのまちの推し活の先輩”からのメッセージ
- まちの文化と日常の魅力（活動や風景）写真のスライド投影（日曜日限定開催）



## 取組9:プロジェクトレポートの作成 <1~3年目>

「地域住民の視点を用いた回遊ルートデザインによるまちの魅力増進・発信プロジェクトレポート」

岩手県盛岡市鉦屋町界限をモデルに実施した3か年にわたるプロジェクトの歩みをご紹介しました。他地域でも再現可能な「住民視点のまちづくり」のプロセスとノウハウを公開しています。住民や市民一人ひとりが主体となるまちづくりへの参加促進や、情報発信の意識醸成、それを通じた地域への誇りと愛着を育む取組のヒントとして、広くご活用いただければ幸いです。

- 仕 様：○ 令和5年度版 A4サイズ冊子（8ページ）500部
- 令和6年度版 A4サイズペーパー（2ページ）100部
- 令和7年度版 A4サイズ冊子（24ページ）500部
- 内 容：実施エリアの解説、プロジェクト概要、企画運営設計プロセスとポイント、取組内容紹介、「まちの文化と日常の魅力@もりおか市鉦屋町界限人からひもとくまちの魅力のルーツインタビュー」「まちの文化と日常の魅力のルーツに出会う『まち探訪&交流会』実施レポート、「まちの文化と日常の魅力」を伝えるフォトギャラリー（まちの一日、まちの一年、街並み建築）」※令和7年度作成版の内容
- 配付等：「大慈清水御休み処」など ※特設Webページからデータダウンロードが可能です。



“わたしのまちの推し活の先輩”  
からのメッセージ

まちの文化と日常の  
魅力を伝えるパネル展  
～人からひととくまちの魅力のルーツ～



10/1(日)～31(火)

会場：大慈清水御休み処  
(子鉦屋町市史跡 3-15)  
●開館時間 10:00～15:00 休館日 木曜休館/入館無料  
●アクセス/公共交通機関利用のご案内  
盛岡駅東口13、14番バス乗り場より  
「若手駅交差(矢野営業所)」「日詰駅前に乗車、  
「南大通」二丁目バス停下車、徒歩3分

お問い合わせ 特定非営利活動法人盛岡まち並み塾 事務局  
TEL:019-656-1603 ホームページ:machinamijuku.org  
主催 特定非営利活動法人盛岡まち並み塾 協力 もりおかワカプロジェクト

<R5>…令和5年度に実施したインタビューです。  
<R6>…令和6年度に実施したインタビューです。



小学生がおこづかい持って  
立ち寄れる場所を

鉦屋町生まれで、自宅の町家を改修して食事処とたい焼き屋さんをやっています。子どもの頃こころに氷屋さんがあったね。だから、昔みたいに小学生くらいの子がおこづかいを持って気軽に寄れる店があれば、思い出をもってもらえて、大人になった時に鉦屋町の舟っこ流しや、火消し文化(消防団)とか、まちの文化が脈々と受け継がれるきっかけになればいいなと思って始めたんだよ。

店に来る人には町の成り立ちと見所を紹介します。街道、惣門跡があって城の手前の町だったこと。江戸に荷物を何て運んだか、舟です。実は、港町だった。それが駅ができてから自然と忘れられた町になったこと。

それから、まずは大慈清水は必ず行ってねと伝えます。ベンチに座って水を飲んで、余裕があれば大慈寺へ。そしてゆらゆらと堀沿いを歩き青龍水に行くと癒されますよ。千手院の角を曲がって、時間があれば惣門、木津屋へ。もっと時間があれば円光寺、そして御蔵へ。

家の近くの十文字稲荷は小さいお稲荷さんですが、地域住人が守り続けています。なかなかない事ですよ。それから、まちには9つもの寺があります。盛岡城築城の際に要塞として並べたんですよ。寺が多い事がこの境界の文化が育まれた理由と関係があるのかもしれない。

まちの魅力はこの道の狭さ。お互いに声をかけやすく、車は譲り合う。その中に人間の感情が生まれてくるのではないかと思います。うねうねと見通しがきかないところも実に魅力的。城下の入り口だからですね。あさ開の奥の和竿屋のところがクラクカーブも珍しくて、そこから歩いてくると番屋が見えてくる風景にも引き込まれますよ。

一つ裏の通りも好きですね。細重さんとか裏側まで抜けていて低くなっている。ずーと石垣もある。それから、一押しなのはユニバースの裏側ですね。コーヒー豆屋フラフさんと小洒落た店の通りですね。町のフォーシーズンズも良いですし、景観樹木がたくさんある。昔からある樹木にこんなにたくさん触れられる所ってなかなかないですよ。

子ども達が地域の思い出を持ってもらえるように

<R5>



地域のみどころ  
いや～いっぱいあるね

私は鉦屋町町内会長を3期務めて、そのかわり、町の案内人を続けてきました。元々この町が好きだけど、観光客に案内をするようになってから、歴史を調べるようになって町の魅力にどんどんはまっていったね。

暮らしていて好きな風景はね、町家が並ぶ町並みに見える松の木と岩手山だね。冬は驚の雪型が見えたりして良いんだよ。

それから、北上川沿いの川原が好きだね。子どもの頃の遊び場だった。砂場もあって、ガマの穂を松明に見立てて戦争ごっこをして遊んだよ。自分の子どもが小さい頃は明治橋から「おんまや橋」の間に散歩して新幹線と岩手山を見によく出かけたものだよ。羅漢公園は自分が卒業した保育園の近くだから、懐かしくてね、時々見に行くよ。

お勧めのコースは、原敬の菩提寺大慈寺、あさ開から四大飢饉の供養像がある羅漢公園、そこから三岳亭、め組消防番屋、もりおか町家物語館を巡って大慈清水御休み処に行くとか約30分だね。

大慈清水を起点に大慈清水御休み処、大慈寺、青龍水を通して、惣門跡と、江戸時代の大火をきっかけに防火施設を備えた木津屋、そして工藤薬局から、江戸時代に本堂が建てられた円光寺に向かい、米内光政のお墓や首塚の話、夫婦桂に触れて、下町史料館に寄ると約45分だね。下町史料館の中を見学して、明治橋と新山河岸を見て、市立病院跡地のユニバース、斎坂鍛冶店とか町家の街並みを通して大慈清水に戻ってくる。

裏通りの用水路の跡を辿りながら、昔の石垣が見えるショートコースもあるよ。だいたい40分くらいのコースと、下町史料館もじっくり見て、全部周るなら3時間コースだね。

三面地蔵と、昔の街道とか十人町のところとか隠れスポットもあるな。いや～、いっぱいあるねえ。

<R5>



自分の言葉で表現したい

鉦屋町惣門の呉服屋に生まれ、弟が3代目です。大慈寺小学校出身です。鉦屋町に30年、神子田町に30年、今は南大通3丁目に住んでいます。主任児童委員等をやって60歳を区切りに新しい事を始める良い機会だと思って、2011年から「ふるさとガイド」も始めた。生まれも育ちも盛岡だから当たり前に知っていることばかりと思って参加したら、最初に教本を渡されて、目から鱗もいって、初めて知る事ばかりだった。「原さん」の墓所がある事は知ってたけど人生までは知らなくて、原敬の奥さんの話を知った時はなんて素敵な出来事だ！って、楽しくて、も～面白くて！知識だけでなく知恵になるように、ちゃんと自分の言葉で表現して伝えられるように必死に勉強したよ。

「もりおか歴史文化館」のガイドでも、先輩方の話を聞いて、盛岡が大好きな私の気持ちプラス、愛情を持ってちゃんとした知識と今のニュースも織り交ぜながら話せるガイドになりたいと思った。カッコいい言い方をすると、何か少し盛岡のためになる事をしようと、2015年頃に昔話のコーナーで町名の由来や町の言われの事とかについて自分で物語の文章を書いて盛岡弁で話す活動を始めた。

鉦屋町はどこも好きだけど、大慈寺小学校の広い校庭から眺めるゆったりした感じ、大慈寺の山門、涙が出るね。川鉄の方に行く堀のところも葛が素敵なんだよ。あとは、木津屋さんのところ、三面地蔵さんのところとか、「こちゃこちゃ」とした路地がいっぱいあるでしょ。風景というより空気。あの頃生きた「わらしやん」として楽しくやっていた風景だよ。盛岡三清水の内の二つがここにある事がすごく自慢。川や山と同じようにはならない風景。だから掃除してくれる、守ってくれている人の事はいつも伝えるの。岩手山が見えるところは最近案内するね。木津屋さんの佇まいも見事だと思う。道並びも良いね。道路拡張とか変化がないのは良い。鉦屋町の通りがお向いさんと距離が近いことが素敵だ。それから、肴町や市役所は近所。自転車で動ける町ってのも良い。盛岡は良いよね～としみじみ友達と話した。年を重ねて色々見えてきて、自分はこのルーツなんだと思った時に、「ああ、ここだ。」というものだと思うな。

案内をするようになって歴史を調べるうちに  
まちの魅力にどんどんはまっていったね。

知識だけでなく知恵になるように  
今のニュースも織り交ぜながらまちを案内したい

<R5>



**「今日も良かった  
明日も来れるように」と  
皆さんが楽しくすごせる場を**

「細重酒店」酒屋で「もっさり」もやっています。1800年頃創業で、昔はお酒も造っていて、大正元年には麴組合を作って麴を作っていました。市内から昭和40年代に嫁いだ頃はね、おじいちゃん、おばあちゃん、旦那さん、ひいおばあさん皆でやりました。店番をやる家族が複数いたから、昔はもっさり朝からやって、ご近所の方というよりよそからも来てたね。  
「かわつ」がある頃は、お客さんが酒のつまみにスーパーのお惣菜を買って飲んだ。80歳代の常連さん達が亡くなって寂しいけど、こ5年くらいでまた新しいお客さんも増えたね。

お店に立つ時に大事にしていることはね、いさかい事無く楽しく皆さんが過ごせるようにという事ね。男の人同士が集まる小さいコミュニティだから、「今日も良かった明日も来れるように」と思えるようにね。  
お店をやっている良い事は、張り合いかな。いつまでやれるかというのもあるけど、「刺激になるんだから、お店をやるうちはやりなさい。」と子どもたちにも言われるの。麴造りも今もやってる。「今度麴作るんだけど」と、声をかければ、娘夫婦が手伝ってくれるね。

地域の良いところはね、こんな狭い所に井戸が二つもある事だね。お客さんたちも焼酎割ったりしてるの。パーツと行ってさ、ペットボトル持って汲みに行くのさ。青龍水だっけね、やっぱりおいしいんだって。

町家暮らしは、嫁してきた時からこうだから、夏は暑い冬は寒いけどこんなもんだと思って暮らしてる。  
子ども達は皆ここで育って、子どもの頃は下にお客さんがいて賑やかで勉強もできないなんてぐじぐじ言うし、よそのお友達の“なんとかハウス”の家を羨ましがってね。それでも今の年齢になるとさ、自分達の子供連れてくると「見てごらん、おばあちゃんの家は町家なんだよ」って言って見せてる。ある程度の年齢になるとわかるのね。自分が育った時には気づかない部分ってあるしね。

雛祭りはその時じゃないとお雛様出さないんだ。だから、イベントがあれば、娘から「こうすれば、ああすれば」言われながら、皆でやれて楽しいね。

ある程度の年齢になるとわかるのね  
自分が育った時には気づかない部分ってあるしね

<R5>



**「御蔵」は地域の宝  
江戸時代のままここにある  
感動から始まりました**

御蔵で下町史料館の館長をやっています。下町の商家や民家が使った道具、参勤交代のお人形、丁印、舟橋に関する物を展示しています。南大通2丁目に10年程暮らし、昭和50年代に主人が家を建てて南大通3丁目の住人になりました。婦人防火クラブの会長、町内会長も務めました。御蔵管理委員会会長が町内会長を兼ねていたの、そこからずっと縁が切れないです。

初めは御蔵が地域の宝だという事があまり浸透していなかった。つまり、私自身も蔵にほとんど行ってない人間だった。自分が関わるようになって「え!こんなに江戸時代の状態のままの蔵がここにあるなんて!」そういう感動から始まったんです。とにかく皆の宝にしようと、外に働きかけるのも大事だけど、まず地元を力を入れました。開館日は月3回から毎週土日までに、住人にとって結構関心が高い所にきているかな。

北上川沿いに江戸時代に盛岡藩が建てたままの場所にある平屋の米蔵で蔵自体本当に立派です。本当に誇れる江戸時代の遺産です。展示品の古い物には昔の人の工夫が詰まっているんですよ。漆のお椀にしても持った時の感触が今の食器と全然違う。管理が大変でもきれいに拭くと色艶が出る。大事にさえすれば今でもあまり劣化せず凄く良い物が多い。そういう事を大事に伝えていきたいと思っていました。「もったいない文化」の継承ですよ。

こういう盛岡らしい良い物の背景を話すと相手の顔色が変わります。それを見て一緒に考えたりおしゃべりするのが楽しいんです。「他の博物館みたいに美術品ではないけど、日用品の中で面白い物や洒落ている物を飾っている場所が一つでもある。それが県都盛岡の中心地にある事がとても貴重ですよ。」と、都会からの来館者に言われてね。見学者の方達に励ましや勇気をもらってます。少しずつ集めたものを一つづつ解説をつけて、こつこつやってきた事が認められてきたと自負してるんだけどどうだろう。

まちの自慢は人情だな。御蔵管理のメンバーは30人程で、マンションに暮らす人達も当番をやってくれたりするんですよ。昔からの活動といえば舟っこ流し。やっぱり川の近くだから誇りだね。

外へのはたらきかけも大事だけど  
地域の皆の宝にしようと思えば地元を力を入れました

<R5>



**人とつながりやすくお隣同士  
でコミュニケーションが取れる  
ところがいいですね**

大正9年創業、2023年に103年になる理容室の3代目です。会社勤めをしている時に理容室の長男と出会い継ぐ事になりました。家業が途絶えてはもったいないと思い、理容学校に通いそこを終えてから結婚しました。

嫁いだ時に夫のおじいちゃんに言われた「お客様との信頼が大事だ」という言葉を大切にこの仕事を続けています。今は、常連さんのご近所さんに加えて、遠くからわざわざ車でいらっしゃるお客様もいます。

子育てもこの町でして、父子でお祭りに参加したり、親も引率で関わる事ができて良かったと思います。夫は舟っこ流しの舟づくりも、水の中に入って流し手もしていました。

地域は昔に比べると店は少なくなったと思いますし、新しく住む方たちの普通の住宅も多くなってきていますが、新しい人たちとも付き合いがあり、お店にも来てくれます。

この界限は落ち着いたらまちで、お隣同士のコミュニケーションがとれるところが良いところですね。人とつながりやすく、日常で顔を合わせれば挨拶を交わしたり。スーパーも学校も近いし、歩いていける距離に病院もありますし、中ノ橋や菜園「川徳」の辺りまで歩いて行きます。帰りは「でんでんむし」のバスに乗ってバスセンターまで行き、そこから降りて徒歩で10分位です。

まちのお勧めは、大慈寺の参道、井戸が二つ、もりおか町家物語館、御蔵が好きです。井戸はいつもお掃除している人たちがいるので、「お疲れ様」という感じで自慢です。御蔵は米蔵だった所が見学できて歴史がわかるし雛祭りの時期は雛人形の館になるのでおすすめです。理容組合の人たちを案内したこともあります。地域の方たちがお掃除したり保存に一生懸命なので、そういうところも良いです。

市内で街の開発が進みますが、昭和を感じるこういう町があっても良いのかもしれないと思います。

市内で開発が進みますが  
昭和を感じるこういう町があっても良いのかもしれない

<R5>



**ものを売るより人を売る  
安心できる距離感を大切に**

2024年で、創業100年の呉服商の3代目です。秋は祭り用品が主流で、学校の運動着とか地域の衣料品販売店として商売をしています。神子田朝市もやっていて作業着を多めにしています。娘に作ってもらっているちりめん細工の動物のかわいいストラップも売っているよ。

商売をする上で大切にしている事は、「物を売るより人を売ること」。昔、群馬の前橋で修行した時に学んだ事だよ。衣料品なんかは自分が着たいものが決まっているから、まず話しかけて何がいいかを聞いてあげる。

物が良くて人も良くないと買いたいと思わないだろうから、買ったら安心だと思ってもらえるように話しかけることを意識しているよ。無理にしゃしゃり出て声をかけるのではなく、お客さんが迷ったり何かを望んでいるのかもと思った時に限り声をかける。必要な時に必要な声をかけてその人にとって嫌だと思われない距離感を大切にしているよ。

鉦屋町町内会の会長もやった。今は民生委員、交通指導員、山車の後援会長とか色々。暇そうに見えるのかな。ははは。

特別に地域の仕事を引き受けるというような気持ちではないんだけど、でも、地域の人のつながりを作りたいと思って引き受けてる気持ちはある。

お店をやっている身としても、この人がやっているお店だから安心して買いたいと思えると思ってもらいたいというのは理由の一つかもね。

鉦屋町は住めばわかる雰囲気の良いところがある、感覚なんだろうけど、人の良さなんだろうな。盛岡全体がそうなんだと思う。

「人はもともと善人とか悪人とがいるわけではなく、その人の美しい瞬間と醜い瞬間があるだけだ」という言葉があって。盛岡は、この美しい瞬間を表に出している人が多くて、盛岡に来た人も美しい瞬間が自然に多く出てくるんじゃないかな。

まちの建物だけが残るんじゃない、住む人がいてこそだから、盛岡ナイズされたような人が住んでくれれば良いな。それで、鉦屋町の空気が保たれているのが良いなって思うよ。

鉦屋町は住めばわかる雰囲気の良いところがある  
感覚なんだろうけど人の良さなんだろうな

<R5>



## 地域も家庭も持ちつ持たれつ 人の子も自分の子も 同じように育てる

南大通二丁目の親父が初代の「屋根屋」板金屋に8人兄弟の末っ子に生まれました。大学で東京に行っただけで、若い時に過ごせばよくて、やっぱりふるさと盛岡が良いなど1970年に卒業してまっしぐらに帰ってきました。家業に入り、消防団にも入りました。子どもの頃、秋祭の山車の小太鼓や音頭上げに参加して消防団には馴染みがあったので家業を継いだ兄貴の代わりに誘われたのがきっかけだけど、悩まず「じゃあ入る」という感じでした。2009年に盛岡市消防第二分団組分団長になりました。

自分が入団した頃は、地域の跡継ぎが当たり前のように多く入っていたけど、今は勤め人が多くなって、少し離れた所から継続して参加する人達が多いよ。団員の紹介とかで新しい人も入るよ。まず事故が無いようにそれが一番。長く務められたのは好きだからだ。皆職場が違う人達だから、酒を交わしながら祭りのお話や世間話とか、情報を教え合って話題が豊富になってね、みんなと会うのが好きなのさ。祭りは「大きな良い山車を作って皆に見せてあげよう」という意気込みで良い山車ができれば、「ああ、やった。」という感じ。め組は義経物の鐘も多いよ。職人の世界と近くて作り方は聞いて見て覚える。山車の運行は炎天下でも、やっぱりやらなければならないという“気”でやってる。

生まれた辺りは長屋が多くて、気取らない近所付き合いの良さがあり、「醤油かしてけ」とか、“下町”育ちで地域も家庭内も、もちつ持たれつな時代だった。人の子も自分の子も同じように育ててやるという気持ちで「だめなんだよ、おめさん、やめなさい。」と言ってあげるとか。年上の方から「悪いことはするなよ」、「人の事は悪く言うなよ」とも教わった。まあ、環境が良かったんだよ。俺は、人を嫌いのことも言ったことがない。褒めてやる。みんな友達。出合いを大切にしている。まず声かけはしてみる。向こうの話を「うん、うん」と聴く。耳も目も口もあるんだしやっぱり聞く耳を立てれば、俺はそう思ってる。お年寄りさんとも、若い人達とも気取らないで盛岡弁で話すよ。気取れない。でもそれが持って生まれたものでさ。この調子でこれからも頑張ります。命ある限りね。これからも声かけて、そしたら手伝ってあげるから。若い人達がまちを賑やかにしてほしいね祭事もやれば人も集まる。町家の空間や古い街並みが好き。あと、親父がお洒落だったから俺も色んな服を着るのが好きでおしゃれは楽しいね。それから、俺はものを大事にするよ。大学卒業の頃に買った革靴を今も履いてるから同級生には驚かれる。女房も大事にするよ。怒られてばかりだけどね。

<R6>

「うん、うん」と、相手の話を聴く耳をも持つみんな友達。出合いを大切にします。



## この街並みに入る “北の玄関口”でありたい このまちが大好きです

南大通二丁目“寺ノ下”生まれ、1877年創業の葬儀屋の5代目です。三人兄弟の末っ子ですが高校一年の時、3才上の兄が亡くなり、その時、「ああ、自分が家業を継ぐんだな」と、気持ちが芽生えました。東京の大学に行き、帰ったらすぐ継げるもの思っていたので就職活動をしてなかったんですが、4年生の時に父親から一通の手紙が届いて、「今は、お前のことを欲していないから、どこかで自分で飯を食え」と書いてありました。いや～参ったまいった。慌てて叔父に相談しましたよ。縁あって地元の金融機関に就職しました。4年働いた頃に叔父から手伝ってくれと言われて、その後京都で修行をして家業に就きました。

親父に言われて頑として自分の中にある事は、「地域と消防団を大事にする」と。2022年の本社社屋建替えの際には、この界隈のまち並みに入る“北の玄関口”で在りたいという想いが強くあり、お寺や町家の街並みにマッチした町家造りにしました。前の社屋に親父が取り入れた火灯窓と墓股の二つの装飾をまた取り入れた事がこだわりです。

子どもの頃の遊び場はお寺。野球少年だったから「長松院」の境内でよくキャッチボールをしたし、冬は雪の土俵で相撲もしました。神子田の田んぼでスケートもしました。住宅も沢山あり、子どもも沢山いて、赤ん坊の泣き声や、子どもが親に叱られる声がよく聞こえて賑やかだった。近所には叱ってくれるおじさんやおばさんがいてね、簡単に出来る事ではないから立派な事だなと思いますね。

長屋のノスタルジックな風景も好き。それから、「浜藤」が好きでしたね。いつもおっきな樽があって、ホースで水が流れていて、そこで水を飲むのが好きとか、うまかったとか、汗をかいた時とか顔洗って、気持ちよかったです。このまちが大好きです、大好きです。舟っ流しも秋祭りも大好きです。

ここが道路計画区域だった時に、「このまちはこのまま絶対に残すべきだ」と言ってくれる人がいて嬉しく頼もしかったです。まちの魅力を残そうという人達の想いがだんだん形になって、何事も本気でやれば形になるのだと、地域や人々から、エネルギーや意志を日々感じています。

<R6>

このまちを残すべきだと言ってくれる人がいて嬉しく頼もしかったです



## 大慈清水は“おらほの庭” 綺麗だと言われれば嬉しい

鉈屋町の魚屋・海産物商5代目で、7人兄弟の長男に生まれました。魚屋は親父の代まで。私は自動車業界に勤めて宮古など県内を転動して歩き、1990年定年で戻ってきました。社員旅行や妻と旅行で国内外様々行った先と比べると、こっちは刺激がない。まあそれが良い。あんまり刺激があっても困るものね。何か一つくらい学びたいと思って、2000年頃から「放送大学」に入学して、自然科学や、生活と福祉などについて学んでいます。今、大学から「社会にどう刺激を与えるか」というような課題が出されていてどうしようかと考えているところ。

大慈清水に2011年頃から関わらせて、世話人の一人になった。大慈清水用水組合の代表の体調が悪くなったので、手伝ってほしいと。昔は地権者の人達が掃除等管理に関わっていたけど、今は近くにほとんど暮らしていないから、近所の人達で世話人してるのさ。誰が代表ということではなく、それなりに役割分担があって、一人一人みんなが世話人として責任を分散してやってる。2023年の組合員は37人。組合費と募金で運営してる。掃除は週1回世話人4人でやっていて、時々専門学生を手伝ってもらってる。特に地域にこだわらないで関わられる人がいたらそれでも良いのさ、みんなと相談して決めるけど、40-50代の人達もいると良いんだよね。大慈清水は普通の井戸とかわりありません。掃除をして、保健所の水質検査もして安心して飲める水ですと。これは軟水なわけさ。だから舌で感じて味わう抹茶に合いますよと。

子ども時代の記憶は、終戦前、小学生の頃、この辺の女性たちがモンペ穿いて皆バケツ持って水を汲んで小学校まで出はったんだ。家に魚屋だからポンプ井戸があったから、俺は「大慈清水」はほとんど使ってない。でもまあ、「大慈清水」を無くすって言ったって寂しいから、このままにして。井戸は庭と同じ、「おらほのお庭」なわけさ。だから汚いとなれば誰かが掃除をやれば良かべなど、一生懸命やってくれる仲間があったのさ。自分達は使わないのにね、自分の家は構わないのにね、「大慈清水」だけ気になって、使う人達には『汚くしてはだめだ』と注意書きして掃除してさ。やっぱり来た客さんから「美味しい水ですな」と言われれば嬉しいし、「汚くしてなんだこれは」と言われれば嫌だし悔しいね。「きれい」と言われれば、きれいにして良かったと思うね。

<R6>

誰が代表というのではなく責任を分散して一人一人が役割をもって世話人をしていきます



## 一度離れてわかるまちの良さ やっぱり居心地がいいですね

1656年開山の「久昌寺」25代目住職です。昔は、寺は世襲ではないので、私の家系では私で5代目です。東京の大学に行きながら仏壇屋でバイトもして、そこに就職して2年間サラリーマンをして、その後、2年弱横浜の鶴見で修行をして、2014年に住職になりました。生まれは松尾町で、大慈寺町にあるお寺が祖父母の家でした。4人兄弟で男児は自分だけだったので、小さい頃から寺を継ぐものと言われていました。檀家さんとかのおばあちゃんに「おらほのお葬式は、おめはんによってもらうからな」と毎日のように言われ、約束のお小遣いをくれるんですね。ありがたいですね。祖父母に、特におじいちゃんに可愛がってもらいましたね。小さい頃からお坊さんになるための英才教育とか、祖父が「これを覚えなさい」と、『般若心経』を全部平仮名で書いてくれましたね。

大慈寺小学校出身で、遊び場は友達が多く住んでいた神子田町の朝市の方で、ラジコンやミニ四駆とかしてましたね。鉈屋町辺りはそんなに遊んでないかな、「かわつ」ペット園の釣り堀で釣りをしましたね。「青龍水」でいたずらした時には、近所のおばあちゃんに「なにやっつんの！」なんて怒られる。まあ、そんなようなことがあったりですかね。

東京に出て、一度離れてわかるまちの良さは、居心地がやっぱり良いですね。東京は忙しくなくて、こちらはのんびりしている感じが安心感がありますね。でも今は時間に追われていますけれども、昔ながらの所はぜひ残してほしい。町家とか、この辺の街並みは良いですよ。新しくするのは簡単ですが、お寺もですけれど、守って残すと色々資金面とか大変なこともあるので、できるだけ地域で協力して残せると良いかな。

寺巡りも好きで、日本の寺の富士山のような緩やかな曲線屋根が好きで、宮大工の職人技に感心してしまいます。昔からお寺が好きですね。気づけば大好きなお寺で住職をやって、幸せなんですね。お寺って敷居が高いと思って皆さん来づらいのか、もう少し色んな人が来れるよう開かれた感じにしたい。写経体験や、檀家さんのご縁も大事にしながらヨガ体験などもやっていて、色んな人に来ていただけるお寺であれば良いな。やれる事はやってみて、より良ければ良いかなと思っています。

<R6>

寺巡りも好きで、昔からお寺が好きです色んな人に来ていただけるお寺でありたいですね



**何事も断らないのは  
色んな人と付き合った方が  
楽しいから**

2023年5月に鉦屋町町内会長になりました。秋田県出身です。神子田町に住んでいた時に、市内に出かける途中に今暮らしている家の貸家の看板がでていて、そのまま不動産屋に行って中を見せてもらって気に入ったので住むことを決めました。大家さんに、「もう誰にも貸さないつもりだから勝手に改修でも何しても良いよ。」と言われてますます良いなあと思って、「良いところを見つけたから引っ越しから」と家族に話してね、引っ越ししてきました。

地域がウェルカムな感じが良かったです。どこから来たんだという感じでなく、「ようこそ来てくれました!」みたいな感じ。鉦屋町に住もうと思って引っ越した訳ではないけど、暮らして良い所だと思ってもう20年以上たちます。子供が小学生だったので子供会に関わり、1年程した時に石岡さんにスカウティングされて町内会活動に関わり出して青年部長、副会長もやりました。PTA活動も18年程長い間関わりました。「舟っこ流し」にもずっと関わっていて、流し手も、火をつける役もやって、はまったんですね。何事も断らないのは普段から人と会うのもイベントに参加するのも楽しいし、色んな人と付き合った方が楽しいしいから。おかげで毎日知っている人に会うから楽しいですよ。

町内会では運動会、敬老会、日帰旅行に、以前は忘年会、年祝いや成人祝いか色んな活動を続けてきているけど、参加する人は一定の人という印象だから、もう少し活性化させたいです。地域の人の良さが魅力。他の町内に比べるとおとなしいなどと思うので。また新年会とかやりたいですね。「十文字稲荷祭り」というのがあって、記憶に残っているのが引っ越してきた年にお神輿とか、十円市とかやっていて、またやりたいという声もあるから復活できると良いですね。ここ10年程で新しい人達も地域に住んでいるので、今また新しい事もできるタイミングなのかもしれないですね。色んな人が積極的に地域に関われるように、これからも人を大事にして、繋がりを楽しんでいます。

色んな人が地域に関われるように  
これからも「人」と「つながり」を大事にしたい

<R5>



**井戸や町家や暮らし文化を  
知ってもらい  
仲間を増やそうと始まった活動**

1949年松尾町生まれ、親父が画家で教員、親戚は坊さんです。久昌寺保育園、大慈寺小学校、河南中学校卒業。このまちで育ちました。自分も絵が好きだったけど描かなくなり、親父の友人が数字の楽しさを教えてくれたことから理数系の道に進みました。建築をやりたいかったけど、縁があって東京の大学で交通工学を学びました。1972年岩手県入庁後、県内の都市計画に携わり、絵描きにならずとも、建設に関った橋や道が地図に残る、地球というキャンパスに絵を描く仕事に就きました。

2003年頃、盛岡の歴史的建造物の保存に取組む建築士の渡辺敏男さんとの出会いがきっかけでこの地域の歴史街並み保存に関わり始めました。親父は先に知り合っていて、自分は面識がなかったけど、市内の街並みフォトブックを作るのを知って面白そうに参加したくて、渡辺さんに直接電話をかけたのが始まりです。「岩手川」酒蔵でのコンサート、「旧暦の雛祭り」などイベントに声を掛けられて最初は手伝いの世界でした。地域に道路拡幅計画の工事が迫ってきたころ、井戸や町家やそれに伴う暮らしや文化をなんとか残したいと、市民に集まってまちを知ってもらい仲間を増やそうと始まった取組でした。

子どもの頃遊んだまちには当たり前に町家等があったから、「残そう」というような感覚が最初の頃なかなかピンと来ていなかったけど、確かにだんだん少なくなってきていたし、普通に井戸があり、「川鉄」の釣り堀の辺りに芹田があり、大慈寺の方から小川が流れていて飛び越えるのがやっとの堰(せき)があったり水がすごく豊富な町という記憶がある。道路拡幅となると井戸が無くなる予定だった。計画当時は、人口、交通量が増える時代で、交通ネットワークを整備するためには、まちを壊して新しいものを造るまちづくりが主流で、それが徐々に人口が減り始める時代になってきた。全国的にも、歴史的建造物を残したいという人達がけっこういて、支援事業もあった。岩手県の景観条例をつくる時代にも立ち会いました。都市計画は一旦決めるとよほどでない限り消せないな道路計画が見直され、まちづくり計画ができて、街道筋の昔の時代の街並みを想像できるようなきれいなまちになり、無電柱化工事が入る事になるとは、感慨深いです。新しい住人の方も増えてきているので、そういう人達ともこれからのまちの事を話したり考えたりする機会を一緒にもったり、祭りみたいな事とかやってみようという事が地域から生まれてくると嬉しく思います。

街道沿いの昔の時代の街並みを想像できるような  
きれいなまちになり、感慨深いです

<R6>



**舟っこ流しは先祖供養行事  
見えないところもちゃん  
ちゃんとする**

2010年頃から鉦屋町の舟っこ流しの棟梁として舟を造っています。鉦屋町生まれです。中野に住んでいたこともあります、実家建て替えて鉦屋町に住むようになって40年以上です。前の棟梁が近所に住んでいたことから声がかかって、手伝いに行き引き込まれた感じでした。それまでは鉦屋町で舟を造っているの知らなくてね、全く興味がなかった。奥さんとは違って自分は町内活動にもほとんど参加してこなかった。

舟造りは、「今年はこうしよう」、「来年はこうしよう」と、毎回同じものはできないからまだまだ現在進行形。でもあと5年くらいかな、80歳までなんとかやるけど、それで終わりにしようと思ったんだよ。「後を継ぐ人、誰かいますか?」って聞いたら誰もいなかった。でも、新しく住み始めた町内の人に舟っこの模型を見せたら後継者をやりたいって人が出てきたから、弟子として育てているところ。

舟っこ造りで大切にしていることは、見えない所もちゃんとつくること。一度手抜きをすると違うところ手抜きするようになるから絶対に手を抜くよと弟子には伝えている。今年より来年はもっといいのをつくらうと思う。きちっとやるとそれだけ感動もありますよね。舟っこ流しは先祖供養の地域の行事。人だて供養する時に立派な棺桶に入れてちゃんと化粧して送ってやるじゃないですか。供養のお札が貼ってあるでしょ、あれだつて一軒一軒想いがある。だから適当には造れない。鉦屋町は一生懸命お札も手書きしています。鉦屋町町内会の舟っこではペット供養もやっているんですよ。手書きは上手下手はあるけど温かみがあるじゃないですか。きちっとやるとそれだけ感動がある。娘からも「鉦屋町の舟に火が付いたときに歓声と拍手が上がったよ!」て。そういうためにもやっているのさ。

でも、夫婦で関わるようになってから一般のお盆の過ごし方はできなくなりました。それでも、子どもらは来て見ていく。孫には「ほら、これ、じいじが造った舟だよ」って自慢してくれる。まだやる気になるといっか、自慢してもらって良いと思うんだよ。でもやっぱり大変だけれどね。

一軒一軒想いがあるから適当にはつけれない  
お札も手書きです。温かみがありますよね

<R5>



**“つかず離れずな距離感”と  
暮らしぶりが魅力です**

鉦屋町に生まれ、24歳の時に東京にお嫁に行きました。40年程東京に暮らして2007年頃に盛岡に引っ越ししてきました。主人が「老後は鉦屋町で暮らしたい。」と言うのでびっくりしたけど、母も寂しく暮らしていたから、それじゃあと。私は手芸教室をしていたのと、主人はお茶をやっていたので、青龍水を使ってお抹茶を提供する喫茶店をやりたいという事で帰ってきた。ところが通りは人通りが少なくてそれでは困るから、まちを元気にしなくてはという事で、町おこしの活動も始めました。

意識していた事は、住宅だけでなく商店が揃うような街になって欲しいな。それぞれの家に住んで得意なものを作って売ろうな人達が暮らす職住一体の暮らしがある町になって欲しいと主人と話していたの。私が子どもの頃はすごく賑やかな町だった。学校の担任の先生に「まりちゃんの住んでいる鉦屋町は全てのものが揃っていてすごいんだよ」と言われた事が誇りだった。母に言わせれば「ゆりかごから墓場まで」というような町ね。

それから、生まれ育った町家は、「自分の家は大事にしなさいよ。」と母から伝えられて、大事に暮らす母の姿も見てきたから、なんとしてもこの家を有効に使わなければと思って、盛岡に帰ってきた時にリフォームしたの。実際に大変な面もあるから支援もあると良いね。

この町の魅力は、それ程立入らないけどお互い気にしているという、「つかず離れずな距離感」が保たれている事。それから、暮らしぶりだと思う。朝6時になると寺の鐘が鳴って、やかん持って青龍水に水を汲みに行く。朝市もあるね。暮らしぶりが魅力だから、やっぱり住んでみたいよね。移住する人がいたら窓口になれるように意識してる。誰か一人でも地域に知り合いがいれば、困りごとがあっても安心して暮らせると思うからクッションになれるようにね。フィーリングが合えば、旅行で訪れた人だつて地域の人と対話できて、「あそこに行った方がいいよ」とか教えてもらえたりしたら、得した気分になるじゃない。東京から店に来るお客さんが、来る度にお土産もってくるから、そんなの良いわよって伝えるんだけど、「わざわざお土産持ってくる場所がある事が嬉しいんです。」と言うのよね。やっぱり人が大事だと思うよね。

移住者にとって地域の窓口でありたい  
安心して暮らせると思うから

<R5>



**長く通うまちになりました  
地域の皆さんに声をかけて  
もらえることが嬉しいです**

1871年創業の酒蔵会社に2002年に入社しました。長田町に生まれ育ち、この界隈のことは知らずに、友達に誘われて、直営の多国籍料理レストランにアルバイトに入ったのが始まりです。9月14日秋祭りの山車が運行する中、右往左往して遅刻しそうになりながら初出勤した事を覚えています。

レストラン担当の後は、営業や広報、観光、総務等を経て、現在管理部門を担当しています。「あさ開」があった事で何かが繋がりが新しいものが生れたり、感謝される何かが出来た時や、若い子たちが成長していく様子を見ていくのは面白いと思います。

レストランがあった時代に、子ども会行事や大慈寺小学校の校外学習で地域の友達によく使っていただけで、長く働いていると顔なじみになって、「子どもの頃に来てました。」と大人になってからも来てくれたり、地域のファミリー層とお付き合いが出来たというのが大きくて、地元の温かみというのを感じられていました。長田町より、これらの地域の人たちが方々が顔を覚えてくれて、歩いていると声をかけてくれたり、イベントなどあればちゃんと意見を言ってくれたり、ありがたいですよ。秋祭りでは山車の休憩所に使ってもらったり、日本酒の飾り樽を山車にのせてもらえるのはやっぱり良いですね。消防団の皆さんにもお世話になっていて、声をかけてもらってありがたく思っています。

お酒は人の心を開きますよね。食を彩りより美味しくしてくれることも魅力ですから、近頃のアルコールに対するネガティブなイメージを払拭していけたらと思っています。酒造りは気候によって発酵具合が違ったり同じようにはできない、米がとれなかったりと大変です。時代に翻弄されながらも新しいチャレンジのその繰り返しで、だから完成する事はないんだと。常に時代に合わせるだけでなく、ちょっと先を見なければというのがあります。毎年新しい酒を造りますし、企業内では「チャレンジ精神」を大事にしています。若い人達の意見もある程度取り入れながら。先日は20数年振りに社内レクで大慈寺小学校を借りて運動会もやりました。

観光も重要視していて、地元の「観光蔵」でありたいと思っています。そして、住宅地の中にある企業ですから、もっと地域の友達に認められて愛されるように、何かあった時に「『あさ開』だったら」と思ってもらえるようにと、微力ながらも常に役に立てるようにと思っています。これからも、もっと地域と一緒に何かできたらと思っています。

お酒は人の心を開き、食を彩ることも魅力です  
いつも地域のお役にたてる地元観光蔵でありたい

<R6>



**人や風景や色々な場所を  
繋げる場になりたい**

2019年から蔵を活用して、「とと」という宿をしています。人とか場所とか風景とか、お店とかに繋がればと思い、人々の「たまり場」として地元の人にも利用してもらいたいと思い始めました。地域の人は、びっくりするくらいウエルカムな空気や、ご近所さんも声をかけてくれます。「あさ顔プロジェクト」もあって、近所の会話のきっかけにもなるので良いですね。

この界隈の魅力はやっぱり古い町並みです。宿のゲストさんにも「この辺は急に雰囲気が変わりますね! 町家にお寺に井戸もあって凄いな!」と言われます。こんなまちがあるのと予想外の出会いがある。他にはない、珍しくて、特別な町ですよ。ここで宿をやれているなんてすごいラッキーだと思っています。町家のある町並みはやっぱり落ち着くし、安心感がある。お水は美味しいし、お寺が多くて木を見て歩くのが好きなので、円光寺の夫婦カツラ、大慈寺、永泉寺にも大きい木があって、この辺はすごくいいですよ。

朝は神子田の朝市、「ひつつみ」が好評。夜は「細重酒店」でお酒好きの人、地元のおじちゃん達がいるからコミュニケーションが楽しいし、行けば女将さんか誰かが必ず居てくれますから。引越してきた人と地元の人達との出会いの場にもなる。そして、ぼくの押は羅漢公園。栗割桜や石像に囲まれた空間は不思議で凄く珍しいから。

月曜日はゲストさんと朝食を食べに周辺エリアまで散歩をする日があります。最近、[青龍水、大慈寺、永泉寺、十六羅漢公園、盛岡八幡宮から参道を通り、盛岡バスセンターで福田パン&コンビニでコーヒーを買って、中津川沿いの「深草」前の川原に行く]コースが多いかな。ゆったり語り合う、そして風景を楽しんで帰ります。神子田朝市が休みの月曜日に朝食を求めて散歩してみたたら面白かったのが始まりで、風景とか季節の変化も感じられるし、ぶらぶら歩くのって楽しいですよ。すごい観光地ではないけれど、そういう点で盛岡ってすごく楽しいと思います。好きな人は3日でも4日でも居られると思う。

古い街並みは落ち着くし安心感があつて特別なまちです  
ここで宿をやれるなんてすごいラッキーです

<R5>



**歴史や匂いが風になり  
マイナスイオンがでている  
ものづくりに適したまちです**

ベトナムショップ跡地で2017年から藍染の工房とギャラリーをやっています。歴史が匂いや風になりマイナスイオンが出ている感じで静かでものづくりに適している環境のまちですね。まず暮らしありきて、昔は色々な地域にあつたであろう懐かしさが残っていて好きです。

家々が区切られた中で暮らしが完結してプライバシーが保たれたとしても、どこか閉鎖的で寂しさを感じるけど、そうではなくこのまちは、おじちゃんおばちゃん達が道路に出て日常で暮らしの場を整備している姿が見える。見えて近いからこそ、人の気遣いやバランスをとる距離感が残っていると感じます。四季折々に感じられる要素、季節のイベントもあり、人間の暮らしに必要な広さや高さが自然と保たれ尊重されている地域だと思う。必要な言葉だけではなくコミュニケーションだったりする。川沿いで港町だったこの町は、地域の暮らしがありながら外から色々な人もやってくる。自分の地元の沿岸と生活パターンが似ているから好きなかも。

工房の目の前は小学校で、広々とした道路、空は高く、大きい木も沢山あって、子ども達がわちゃわちゃしてる。自分のやりたい事を中心に、というよりは、良い場所のその中の一員になるというのが自然で、自分もこのまちの一日にいさせてもらっています。だから、初めから感謝の気持ちで暮らしています。掃除をしている人がいる事を知って、自分も始めた清流水の掃除は、夏でも冬でも疲れていても、必ず清々しい気持ちになるので、得た気持ちです。藍染に青龍水を使い始めた頃から井戸掃除に参加させてもらっています。

青龍水のベンチ、大慈寺、裏玄間が見えたり歴史を感じる地形が残る裏通りも好き。細重酒店は近所の昔ながらのお買い物ができる店で、「お疲れビール」を買いに行きます。「今日は暑いね。」とか、お女将さんとの軽い会話も良いよね。

噛めば噛むほど味わい深い、人が面白い地域ですね。実際に歩いて人と出会って会話してみると、町をずっと楽しめるんじゃないかな。

日常の人々の活動や暮らしが見えるまちのスケール  
噛めば噛むほど味わい深い「人」が面白い地域です

<R5>



**町家、工房、荒物屋さん  
軒を連ねる落ち着くまち**

大慈寺町の盛岡唯一の和竿屋「石澤和竿毛鉤工房」に2019年に弟子入りしました。広告業界に20年務め、秋田県の良いコロナや文化、産業を外国に発信する観光PRに携わった際、外国の方と現場を一緒に回るうち、ものづくりの世界のおもしろさにはまっています。転勤先の盛岡で、自転車でもちを巡っていると、親方の店を発見して「なんだこれは!」と。竹竿の世界がある事はうっすら知っていましたが、盛岡にもあることに驚き、話を聞いてみるしかない、足を踏み入れたのが始まりです。親方の素晴らしい作品、一言一言、伝統や文化的なことの重みが魅力的で、でも親方には後継者がおらず、50年かけて培ってきた技術が自分で途絶えるんだ」ということを、ぼろっと言ってしまった言葉が忘れられず、もし親方が、もうやめるという日が来たら、そこで岩手からこの釣竿はなくなるんだと思うと、たまらない気持ちになって、親方の仕事を自分が受け継ごうと、務めている会社を辞めてこの道に進みました。

親方は頑固一徹で一途で「職人」という言葉がぴったりですが、昔ながらの和竿に新たな工夫をしてきた方で、樺や漆の装飾を施した豪華な竿も作る。もっと良いものをという向上心、チャレンジ精神、革新性や独創性にとっても惹かれました。盛岡竿の魅力は、伝統工芸品等の制作は分業が多い中、100以上の加工工程(竹を切る、干す、火入れ、生地組、糸巻、漆、中通しなど)を経て、仕上げ、お客さんに手渡すまでの全てを職人ひとりが行うこと。そして、岩手は豊富な種類の自生する竹がたくさんこの釣竿はなくなるんだという特性である縦繊維のしなりの良さを活かすことができる製品であり、和竿好きに選ばれる理由はそこにあります。

この界隈は大好きですよ。もうね落ち着くんですよ。町家とか、工房とか荒物屋さんとか軒を連ねている所ができるだけ残って欲しい、もっと手仕事する人達が集まってくると良いなとすごく思っています。2024年は積極的に外に出る年にしたいと、「もりおか町家物語館」での親方の個展開催を提案して実現したり、河南中学校での特別授業、大学生と動画作成等にも一緒に取り組んだり、以前の経験もいかして自分ももっと外に伝えていくことをやっていかなければという思いでいるところです。今は、工房へ実家の岩手町から週1-2回通っている状態ですが、いずれはやっぱり工房を引き取って、できれば鉈屋町界隈に工房を置いて、好きな大慈寺地区で仕事をしていきたいと思っています。

これからも残って欲しい  
大好きなまちでいつか工房をもちたい

<R6>

暮らしの場としても、旅で訪れる場としても魅力的なまち。  
このまちの日常に流れる時間と風景の魅力を  
3つのテーマのフォトギャラリーでご紹介します。

## 1、まちの一日の時間（1日を過ごすイメージ）

07:00～08:00



朝を告げる寺の鐘



通勤・通学時間 交通安全



今日も始まり

09:00～10:00



羅漢公園でひと休み



寺院群の自然散策が気持ち良い



ゆっくり寺巡り

12:00～13:00



お食事処でお腹を満たす



町家の食堂でひと休み



夕飯の食材をお買物

14:00～15:00



菓子処で一服&お買物



町家喫茶でくつろぐ



お気に入りスポット探し

16:00～17:00



夕暮れと盛岡町家の明かり



歴史的建造物の夜の表情に出会う



“もっさり”でひと時の交流

## 2、まちの一年の風景

1月～3月



雪の季節／「大慈寺」



「千手院」の節分祭



2月と11月頃二度咲く四季桜

5月～7月



寺院群の新緑



「あさ顔プロジェクト」



「舟っこ流し」の舟造り

9月



秋祭りの太鼓練習



盛岡八幡宮例大祭



め組の山車奉納

06:00～07:00



神子田朝市を散策



朝市でラジオ体操



ひつみつ汁で朝ごはん

08:00～09:00



まちのお手入れ落ち葉掃除



共同井戸の清掃（青龍水）



掃除のあとの井戸端会議（大慈清水）

10:00～12:00



観光タイム



もりおか町家物語館



あさ開で試飲やお買物

13:00～14:00



午後の散策



北上川を眺める



史料館で舟運の歴史に触れる

15:00～16:00



歴史的な建物を巡る



街道沿いの岩手山を見つける



盛岡町家の街並みをたどる

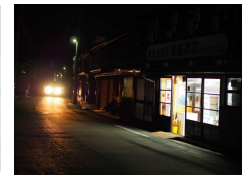
17:00～19:00



十文字稲荷の優しい明かり



ゲストハウスの温かい明かり



今日もお疲れさま、また明日

4月



旧暦の雛祭り



「祇陀寺」の八重桜



「円光寺」の枝垂れ桜

8月



お盆の迎え火・送り火黒川さんさ門付け



お盆供養行事「舟っこ流し」

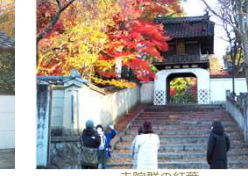


市指定無形民俗文化財「舟っこ流し」

10月～12月



新酒の季節／「あさ開」



寺院群の紅葉



正月の準備／神子田朝市

まちの文化と日常の魅力のルーツを探る  
「まち探訪&交流会」まち探訪レポート

盛岡市鉾屋町界限魅力ガイド&散策ルートマップ」を活用して、まちの文化と日常の魅力のルーツを探る「まち探訪」の様子。探訪先の方へのインタビューを通じて地域の魅力をご紹介します。



テーマは「職人」、「地域の場」。地域にはものづくりをしている工房が沢山ありますが、職人さんお一人で製作から接客を行うので事前予約が必要な場合が多いです。夏の風物詩「舟っこ流し」の鉾屋町町内会舟製作会場、地域サロンやゲストハウスなど立ち入ることが貴重な場所を探訪しました。

⑩ 「大慈清水御休み処」

本プロジェクトの活動拠点である盛岡町家「大慈清水御休み処」にて、オリエンテーションでは、参加者紹介、地域のおさらい、プロジェクトの目的の共有、記念撮影をして、いよいよ「まち探訪」へ出発です！



① 「K&Mテーラー」／村上さん

1、大切にしていること 2、この地域で仕事をするこの魅力 3、地域のお気に入り

2016年創業のオーダースーツ店。1980年代生まれの村上さんは小さい頃から洋服が好きでアパレル業界へ進みました。普遍的なものに魅力を感じて、歴史のある紳士服の完成形であるテーラーの世界に弟子入りした後に地元で独立しました。店内には生地サンプルやサイズゲージのジャケットが並びます。高い天井と明かりが心地良い格式を感じる素敵な空間です。



- 1、普遍的なものがある業界だからこそアップデートすることです。お客様との信頼関係を大切にしています。趣味趣向や深い部分を理解してお客様の理想の一着を仕立てることです。
- 2、スーツが好きで後世に残したいという思いから、特に地方では仕立て屋が減っていることもあり、独立するなら地元でと考えていたのでここで独立しました。古きよきものが残る鉾屋町と仕立屋の仕事に親和性を感じます。河南中学校出身なので、地元を盛り上げたいという思いもあります。
- 3、住居兼仕事場なので、スーパーやドラッグストアがあり生活が近くで完結するのが良いです。コーヒーは「フララフ」、美容室は「フィグレティ」と、狭い町内で色々あるのが魅力です。

② 「十文字御休處一盃森」／一盃森さん 1、地域の魅力 2、「火消しの文化」消防団への思い

- 1、江戸時代の面影、城下町の歴史や特徴がまちのあちこちに残っていることです。道、寺、舟運、酒屋、「御蔵」、「十六羅漢」、「舟っこ流し」発祥の地である「大慈寺」など沢山あります。「十文字稲荷」の祠は最も古く300年以上の歴史があり、「め組」は200数年の歴史があるんですよ。
- 2、消防団は火災発生時に地域住民として最初に行動する組織で、日頃から訓練をしています。行政と連携して地域を守る重要な存在なので無くすことはできないものです。地域に住む人がいる限り、今後も残っていくと思います。

自宅の町家を改修して食堂・たい焼き屋を営みながら、消防団の活動を通じて火消し文化を後世に伝え、地域の魅力を子ども達や来訪者に伝えている「まちの案内人」さんです。お店に通うと地域のことを沢山教えてください。地域の暮らしと歴史を守る「職人」さんです。

③ 「藍染工房」／佐々木さん ※現在は「細重酒店」隣の町家に移転

1、やりがい・喜び 2、この地域で仕事をするこの魅力 3、地域のおすすめ

- 1、藍建てからはじまり、型紙作り、染めまで全て自分で行うので成功までのプロセスと出来上がった時にやりがいを感じます。
- 2、生活の中に水がある事です。長板で作業できる奥行き長い土間がある町家が作業場に最適です。地域との関りの中で井戸掃除を通じて、地域や水への感謝が深まります。
- 3、小学校やお寺の辺りが、空気が違いますよね、「気」が良いですよ。空が広くて鳥の声や子ども達の声が聞こえて、お盆の風景も素敵だし。もう、まち全体がおすすめです。



## 地域を知るための視点

### ◆まちを知る方法:先輩方を見習う

地域にはまちの案内人の先輩方が沢山います。まちに興味を持った時に誰もが自分自身でまちの事を学べる方法を教わりました。先輩方は、実際にまちを歩いて、まちの史跡や町名由来の解説版などから歴史を学んでいます。図書館等で資料を探したり詳しい人に話を聞いたりしてまちを知っていくそうです。

### ◆まちを意識的に見る:来訪者の気持ちで歩いて、まちの変わらないもの・変わったものをじっくり探す

季節の植物、音や匂い、活動、風景、人々など。来訪者のような視点でまちに意識を向けて歩くと、地域の変化、普遍性、特色、共通点や大切なものが見えてきます。そして、地域の人と会話をすると深い発見が生まれます。

### ◆まちの特徴を見つける:まちの文化や歴史を伝えるランドマーク(目印)を探す

まちの文化や歴史を今に伝える古くからある建物、樹木、遠くからでもわかる目印があります。例えば小学校のケヤキ、通りから見える岩手山、まちを見守る消防番屋などです。また、周辺の自然と歴史的環境と調和した建築物等が選ばれる「都市景観賞」があります。大慈寺小学校校舎、あさ開昭和旭蔵、松田屋菓子舗、駒木葬祭など、この地域でこれまで8件もの場所が選ばれています。

### ◆まちづくりの取組を知る:盛岡市の景観保存地区に指定され、美しい街並みづくりに取り組む地区です

旧「料亭川鉄」の板塀、青龍水のベンチ等は地域の子ども達と作りました。7月~9月のあさ顔プロジェクトも景観づくりの取組です。令和7年度は大慈寺小学校2年生の皆さんが育てたあさ顔も並びました。そして、町家が並ぶ道路の一部は無電柱化になる予定です。地区のまちづくり計画や取組がわかると、地域の見え方が変わってくるのではないのでしょうか。



#### ④ 「モーニングカフェ」@ 佐藤青果店 / マスター石岡さん 1、活動の内容 2、活動のきっかけ



- 1、毎月第2・4日曜日10時~12時にモーニングカフェを開いています。地域のお年寄りさんたちが気軽に集まってお茶を飲みながら雑談しています。無料なので誰でも寄って行って！
- 2、こういう気軽な地域の交流の機会が欲しいと地域の人から提案があって、こちらの持ち主さんが場所を貸してくれたので実現したんです。

民生委員の石岡さんがマスターとなって6月から始まった集いです。参加したい時だけふらっと自由に参加ができて、思い出話やこれからのまちの事も語り合えます。和気あいあいと賑やかですよ！



#### ⑤ 「ととと-盛岡のとまれるたまり場-(ゲストハウス)/小野寺さん

##### 1、大切にしていること 2、この地域で仕事をする理由

- 1、地域と宿泊者のハブになり、ここで盛岡の色々なものと繋がって欲しいので周辺情報を集めて提供しています。そして、宿泊者の方たちは国籍も宗教もそれぞれの常識が異なるので、一緒に過ごす上での注意はあらかじめ写真や文字で明示したり、しっかり伝えるようにしています。
- 2、古い街並みが魅力で、肌で感じられる雰囲気の違いがあります。また、立地が盛岡駅から離れている点がむしろ良くて利便性や安さだけを求める方ではなく、水や朝市などを知りたい方、まち歩きを楽しみたい方など何かしら目的がある方がきます。繁華街に行かなくても周辺に飲食店もあり魅力的なものが沢山あります。

一関市出身の小野寺さん。熊本のゲストハウス勤務を経て、県内で独立するまちを探していたところ、ご縁が繋がって2019年に鉈屋町で開業しました。1階の「たまり場」は17時~23時半まで宿泊者にまぎって利用することができます。日曜夜は割り勘の「たこやきの会」をやる時があるそうなので行ってみませんか。



#### ⑥ 「鉈屋町町内会 舟っこ流し舟っこ制作会場」@ 大慈寺/舟っこ棟梁の岩崎さん&顧問の山本さん 1、活動のきっかけ 2、大切にしていること



8/16お盆の供養行事「盛岡舟っこ流し」の発祥の地である「大慈寺」。7月毎週日曜日には境内が鉈屋町町内会の「舟っこ」制作会場となり、地域の方々のが大工仕事をしています。約6年前に鉈屋町に移住し、新しい舟棟梁となった東京出身の岩崎さんと、師匠で先輩棟梁の山本さんを訪ねました。年々厳しくなる猛暑の中、本業の傍らこのように地域の皆さんが準備をして、盛岡の伝統行事が受け継がれています。皆様本当にお疲れ様です。



- 1、引っ越してきて舟っこを知り、舟っこ造りの面白さを知って、自分から棟梁に志願しました。町内会の方に限らずどなたでも制作に関わることが出来るので興味がある方は参加をお待ちしています。(岩崎さん)
- 2、人の魂を供養するので心を込めて、見えるところも見えない所もきれいに、後悔が無いよう作ることです。厳しく教えているので大変だと思いますが、まだまだ、これから頑張ってもらいたいと思います。(山本さん)

「第2回」 2025.09.20.



消防番屋の望楼に上ってまちの成り立ちと歴史を俯瞰で“感じる”体験からスタートしました。山車庫の2階に上り、北上川の川原に下りたりと、アクティビティ満載♪職人が集うホームスパン工房、町家の酒屋・麴屋さん。地域と交わる人々にまちの文化や歴史を伝える北上川沿いの蔵の博物館、まちづくり拠点の町家案内所を訪ねました。地域ならではの・活動・建物・景色からまちの魅力をご紹介します。



① 「め組 山車庫」(旧番屋)／盛岡市消防第二分団(「め組」)分団長の一盃森さん

1、「め組」の由来 2、建物の歴史

- 「め組」の由来は、江戸時代(文化年間1804年～1818年)に自費を投じて消防組を設けた「目明し藤田武左衛門(めあかしのふじたぶさゑもん)」の頭文字から。
- 現在の「番屋(コミュニティ消防センター)」は平成22年に新築しましたが、その前の番屋は、消防団が寝泊まりする屯所で、現在は祭りの山車を保管する山車庫に活用しています。もともとは、明治43年に建設され、昭和26年に延焼したために建替えたものです。山車庫があるおかげで、山車をばらさなくて保管できるのでありがたいです。

消防番屋の望楼での特別な体験。曲がりくねった道、樹々生い茂る自然豊かな寺院群など江戸時代の風景が重なる街並みは上から見ても素敵です。晴れの日には岩手山や新幹線も見えるそうです。



② 「大慈寺地区コミュニティ消防センター」(新番屋)／分団長の一盃森さん

1、消防団の活動 2、まちの歴史に興味をもったきっかけ

- 消防署員とほとんど変わりませんが、空気ポンペを持たないので、消火や消防用水の給水など建物の外から消防署員と連携して消火活動します。
- 「新番屋」の建築時のリーフレット作りがきっかけです。消防の歴史を調べ始めたら盛岡の歴史も知る必要性を感じ、図書館で書籍や新聞記事を調べました。消防団にも大正時代と昭和33年に作成された文献があり、「これを読んだ者は加筆・修正せよ」という言葉が書かれています。



設立60年目の2022年に、名須川町から「あさ開」敷地内に移転開業のホームスパン工房。ストールや服地など製品ごとに異なる羊毛の撚り方や織り方の緻密な設計指示のもと、空気を含ませながら製造していきます。複数の工程は多くの職人さんによる分業で生み出されています。工房は常時見学できてコースター作り体験(予約制)もできます。

③ 「みちのくあかね会」／ホームスパン職人の鎌田さん 1、やりがい・喜び 2、この地域で仕事をするこの魅力

- 製品がお客様に選ばれて大切に愛用されていくことです。工房に併設のショップや市内デパート、インターネットや他県での催事出店等で全国にお届けしています。
- 小説「雲を紡ぐ」で架空のホームスパン工房が描かれています。移転前の出版のため、このことではないのですが、「鉦屋町のホームスパン工房」として、全国から読者の方が訪ねてきます。工房に来た方に「ぜひ鉦屋町の通りもご覧ください」とおすすめできることが嬉しいです。小説の世界観や雰囲気を感じていただける素敵なまちなので。



④ 「細重酒店」／女将さん 1、やりがい・喜び 2、この地域で仕事をするこの魅力

- 毎日人が集まってくださる事です。夕方になると皆さんが集まって、お話ししてお酒を飲んでいる様子を見るのが楽しいです。それから、今でも味噌を手作りする方達がいるので、麴を必要とさせていただいてありがたく思っています。
- 今も実際にこの町家で暮らしながら店を営んでいることに、観光で訪れるお客様が大変驚かれます。単に建物を保存・活用しているのとはまた違って生活の場であるということに特に感動して下さるようです。



明治元年頃に「竹の葉」という銘柄の造り酒屋を創業、大正元年に麴作りに専念して仕入販売の酒屋になりました。うなぎの寝床のような町家造りの建物の奥には、麴作りの作業場の蔵や、お米の蒸し窯があります。お店では、15時からの“もっさり”タイムが始まり、女将さんに会いに来る常連さんや観光客が集まります。

★北上川の河原

御蔵の向にある扇状の階段を下りて、北上川の河原に向かいました。明治橋ができる以前の時代には舟を並べて板を渡した「舟橋」があった場所。河原におりると、頭上の通過交通の音が消え、川の水の音だけがきこえる空間が現れます。春は対岸に美しい桜並木が見えます。川沿いを辿れば盛岡駅方面の近道で、ジョギングコースにしている方もいます。お盆の舟っこ流し、舟運復活の取組もあります。明治橋たもとの川沿いは、舟運で栄えた城下南の玄関口であるこの地域らしいとおきの隠れた名所です。



⑤「御蔵 下町史料館」/御蔵管理委員会会長 長岡さん&下町史料館館長 千葉さん  
1、活動に関わるきっかけ 2、やりがい 3、誇りに思うこと 4、建物の特徴

- 1、町内会で役員として関わり出しました。町内で誰もができる事として、みんなで掃除をすることから始めて、展示品は徐々に整えていきました。
- 2、各所から譲られ収集した暮らしの宝物が沢山あります。大切に使われてきたことが伝わってきます。委員会メンバーで展示企画を考えるので、「貴重なものが身近に見れる」と来館者が感動する姿を見ると本当に嬉しいです。
- 3、御蔵も舟橋も丁印も地元のもので、それを地元の住人たちの手で管理・紹介することは自然なことだと思います。それを実現できていることが誇りです。
- 4、壁は柱を削った溝に沿って板を積み重ね落とし込んでいく釘を使わない「落し板方式」工法です。木材が豊富な地域でしかできない貴重な工法です。柱は縁起を担いで全て八角形になっています。昭和20年代には、屋根の重みによる壁のゆがみを防ぐために鉄のロープを取り付けています。



北上川明治橋のそばに佇む「御蔵」は、江戸時代の飢饉に備えた南部藩の米蔵。市指定有形文化財。「下町資料館」として公開され、南大通三丁目町内会の皆さんの手で大切に守り・運営されている地域密着型施設。暮らしを物語る生活道具や舟橋の資料。春は雛人形の展示など訪れるたびに町の歴史と四季の移ろいを感じられます。入館は無料で、地域の方々のおもてなしも魅力。開館日(4~10月の土日)以外でも、事前相談で見学が可能です。



⑥「大慈清 水御休み処」 / 盛岡まち並み塾 スタッフの佐藤さん 1、大切にしていること 2、地域の魅力

- 1、旅のお客さま、地域の方、どなたに来ていただいてもいつでも気持ちよくいただけるように分け隔てなく丁寧な対応を心掛けています。
- 2、水も空気もきれいでおいしいですね。盛岡が地元ですが、他の町に行ってみると改めて感じますね。人が温かい。始めは硬派で慎重な印象がありますが、一度心を開くととても情が深くて親切です。



明治の面影を今に伝える町家が、2007年に地域の交流拠点に生まれ変わった場所です。ここは、歴史ある街並みを守り育てる「盛岡まち並み塾」の活動拠点。館内では伝統的な町家の佇まいを楽しみながら、喫茶でゆったりとした時間を過ごしたり、地域の情報を集めたりすることができます。ギャラリーや座敷のレンタルも行っており、使う人のアイデア次第で活用の幅が広がります。

「交流会」でのひと工夫：地域の味をいただく

< 第1回 >  
大慈清水と青龍水で淹れた麦茶を  
飲み比べる



< 第2回 >  
「むさしや」のお茶餅をいただく♪



< 第3回 >  
「かわ広」のてんむすをいただく♪



# 「第3回」 2025.11.09.



この境界の特徴の一つは寺町であることです。環境保護地区である寺院群の自然、歴史的な街並みのなかの古くから存在する景観重要樹木が、秋に鮮やかな紅葉を見せる風景も大きな魅力です。清らかな水の恵が生み出す酒(酒蔵)、先人ゆかりの旧料亭、地域の暮らし文化を伝える街道沿いの商家だった盛岡町家などを訪ねました。歴史的建造物と城下町の風情溢れる街並みに、人々の暮らしが溶け合うまち。懐かしさと癒やしに満ちながらも、新しい風が流れるこのまちの魅力をご紹介します。

- ① 「十字稲荷神社」 / 大坊さん&一盃森さん  
 1、どのような場所 2、活動について 3、メッセージ



1、お待さんの時代からある地域の鎮守様です。昭和20-30年代頃から地域の集会場も兼ねた場所です。8月9日の例大祭の活動写真や行燈も飾っています。町内の一軒毎に子ども達が作った作品です。

- 2、人が少なくなり平成18年頃にやめたんですが、町内に子ども達が沢山いた時代の例大祭では「10円店」と言って、おでんやそばを10円で子ども達に売ったり、子ども神輿などをしていました。昭和56年には十字字界隈を通行止めにして「さんさ踊り」もやりました。隣近所の子ども達が沢山集まってきたんですよ。
- 3、300年続く「お稲荷さん」を自分達の代で無くしたくない。盛大にやっていたお祭を、若い人達を動員して復活させたい気持ちを持っています再生させたいです。8月9日の例大祭の日は、子ども達の夏休み期間で忙しい時期かもしれませんが、調整して復興したいです。 皆さんもご協力お願いします。



一盃森さん曰く、お稲荷さんの祠が地域最古の建造物で、300年前の棟札が存在するとのこと。“地域の生き字引”大坊さんたつての希望もあり、お二人にご案内いただきました。江戸中期の約300年前に設立の五穀豊穰、商売繁盛を祈願する十字字稲荷神社には、南部藩の「向鶴」の印があり、地域の人々が大切に守る場所。お二人は神社のお当番も務めています。そして、一盃森さんによると、消防番屋付近の「十字路」付近を境に、地域内の文化が異なるのだそうです。

## ② 「酒蔵 あさ開」 / 岩井花さん 1、地域の魅力 2、この地域で仕事をする魅力 3、大切にしていること



- 1、最近では、ものづくりをしてる方が店を開かれたり、若い世代の方が移り住んできていますね。もともと地域の皆さんがとてもパワフルなのが魅力ですね！
- 2、創業のきっかけでもありますが美味しい水がある事、清流が整っていることです。それから、地域にはお寺や町家があり、点ではなく面で歩けるまちというのが魅力です。
- 3、酒は生きもの。酒造りでは季節や気候の変化と丁寧に向き合うことです。地元の“観光蔵”でありたいと思いますし、いつでも、少しでも、お客様と地域のお役に立てればと思っています。

明治4年創業の酒蔵「あさ開」に2002年入社した岩井花さん。1980年代生まれ盛岡市出身。レストラン勤務から始まり様々な部門を担当されてきました。入社当初は地域についても、日本酒についても詳しくなかったそうですが、どんどん魅力を知っていったそうです。日本酒の魅力は「人の心を開く事」とおっしゃいます。毎日、台湾などから団体のお客さまが30-40名程訪れるそうです。工場見学(事前予約制)ができる「昭和旭蔵」、大吟醸ソフトクリームも買物も試飲も楽しめる「地酒物産館」は、地域と世界を繋ぐ国際交流拠点です。

## ③ 「福聚山 大慈寺(ふくじゅざん だいにじ)」 / ご住職の松居さん 1、地域の魅力 2、地域とお寺について



21代目和尚の松居さんは1980年代生まれ静岡県出身。先代であるお父様の晩年のお手伝いのため10年程前に静岡から盛岡に移住されました。松居家は18代目から住職を務めています。平民宰相原敬の菩提寺でもある「大慈寺」は、1673年創建の黄檗宗のお寺です。明治17年に火事で延焼しましたが、原敬等の檀家さんのご尽力もあり再建されました。黄檗宗は中国から渡ってきた隠元(いんげん)和尚が開いた宗派、中国は室内でも土足の習慣のため、本堂は石畳になっています。京都宇治にある本山の萬福寺と同様の造りで、全国でも数えるほどしかない珍しい明朝様式建築のお寺です。境内の樹木の紅葉が鮮やかで美しかったです。

- 1、古い町家や街並みが残り、風情が残っているところですね。周りにお寺も多く、樹々や自然が多くて、落ち着く場所ですね。
- 2、さすがにお墓で肝試しは難しいかもしれませんが、地域の方へお寺を開放してお寺に人が集まるようになる環境は良いことだと思います。地域で使うことについては、協力できることはさせていただきたいと思っています。

※ 参加者からの質問に対する返答として :Q、「30年以上前に、子ども会でお墓で肝試しをしました。寛大な和尚さんで大変お世話になりました。現在もお寺をお借りすることはできるのでしょうか。」



1895年頃建設の2階建て、原敬も利用した川魚料亭。杉・松・ケヤキなどの板使った趣向を凝らした天井、吹きガラスや建具は当時の物で、盛岡市景観重要建造物です。そして、昔は2階の窓から多々良山が見えたそうです。現在の建物所有者である三田農林さんに地域への思いや今後への思いを伺いました。

- 1、創業者と原敬さんのお父さんが南部藩の同僚でした。こちらで宴会を催した記録が残っています。まさか建物を取得できるとは夢にも思いませんでした。また、町内の「旧和田酒店」については、和田さんが弊社社員の恩師というご縁もあり建物を取得して賃貸で運営する予定です。
- 2、建物については無くなったら寂しい、良くない、盛岡に必要などうかを重要視して使命感というか目の前の利益よりまず保護する事です。また、物件に入らせていただく方には地域に対して掲示板等アナログな方法で情報発信してもらう事を条件にしています。そこから広がりが見られるからです。
- 3、歴史は数十年で作られるものではないです。ここには街道沿いに町家や湧き水など本物があり、文化的な建物やお寺など歴史的なものが密度濃くあります。可能性のかたまりだと思います。
- 4、旧料亭は、指定建造物で制約があるため、活用まで丁寧に時間をかけます。プランニングはこれからなので、イベントなどに合わせて1日開けるなど地域と合せて何かできればと思います。また、「旧和田酒店」は街並みに合う形にして皆さんと良い街を創っていかれたらと思います。



⑤ 「栞葉山 久昌寺 (えきようざん きゅうしょうじ)」 / ご住職の海野さん 1、地域の魅力 2、大切にしていること 3、お寺と地域について



1656年「報恩寺」9代目和尚を最初の住職として迎えてご開山。25代目和尚さんは松尾町出身1980年代生まれ。海野家では5代目の和尚さんです。子どもの頃おじい様が平仮名で書いた「般若心経」のお経本を作ってくれたそうです。建物は「寄棟造」の屋根、本堂は丸柱がない「吊り天井造り」が特徴的。山門は22代目和尚さんが川井村で住職をされていた事から、昭和8年に川井村のケヤキで建てたものです。本堂天井の龍の絵や、21代目和尚さんが描いたという内陣の天井の花々の絵も見せていただきました。境内の色づくイチョウも素敵でした。

- 1、美味しいお店が周辺にも沢山ありますね。私以上に父の方がパトロールをしております。
- 2、お檀家さんのためになれるよう、お寺の運営など色々考えながら、出来る限り精一杯のことをやらせていただいています。



- 3、お寺って敷居が高いですか？ 全然大丈夫です。お寺を使うことについては内容にもよりますが、企画していただければご相談ください。例えばイチョウの落ち葉はきは、一緒にお手伝いいただけたりすれば、みなさんと交流するきっかけにもなれると思いますし。皆さんにはお寺にどんどん来ていただいて、親しみを持っていただけると嬉しいです。

⑥ 「藤村家」／吉田さん 1、大切にしていること 2、町家のリフォームの工夫 3、町家の建物の使い方



鉈屋町生まれの吉田さんは吊るし雛作家でもあります。嫁ぎ先の東京で40年程暮らし、鉈屋町を気に入ったご主人が「老後はぜひここで暮らしたい」と、お二人で東京から移住しました。元は造り酒屋で戦後は農機具屋を営まれていた、生家である築約120年の盛岡町家を見せていただきました。歴史的な魅力を活かしながら現代の暮らしに合うかたちで改修された盛岡町家は、職人の技と工夫、吉田さんのまちへの思いも沢山詰まった素敵な暮らしの空間でした。

- 1、「一生懸命建てた家、育った家は大切にしない」と母から言われて育ちました。歴史あるものは壊してしまったら造れない。私も古い家が大好きで、簡単に壊したくなかったのでリフォームしました。水周りや床暖などの工夫をすれば現代でも暮らせると思いました。
- 2、畳の間は板床にして、応接セット代わりに掘座卓にして温かい風が入るよう細工しました。天井は、桎の木を瓦のように重ねていく桎ぶき工法です。建物で先に痛むのは天井なので、1軒分の桎を保管していたものを使用しました。柿渋を塗って落ち着いた色合いにしました。「一生でこんな仕事ができる機会はない！」と、職人さんが感動されていました。
- 3、食事を開いたり、ドラマ撮影の控室やお見合いに使われたりしています。成功確率が高いんですよ！キッチン配膳台はそば打ちスペースになります。場所貸しできるのでアイデアがあれば教えてくださいね。



### 3、まちの暮らしと文化の歴史を伝える街並み建築

盛岡市都市景観賞



1986年受賞 盛岡市立大慈寺小学校

1989年受賞 あざ開昭和旭蔵

2006年受賞 藤村家(藤村工業所)

文化財建物、盛岡市景観重要建造物



木津屋池野藤兵衛家住宅  
/ 県指定文化財



御蔵 / 盛岡市指定文化財・市景観重要建造物



浜藤の酒蔵 / 市景観重要建造物



2014年受賞  
鉈屋町界隈町屋部ともりおか町家物語館・  
大慈寺地区コミュニティ消防センター



2016年受賞 三沓亭・啄木鳥界限



2017年受賞 松田屋菓子舗

盛岡市景観重要建造物



大慈寺山門



円光寺



川 鉄



2019年受賞 ゲストハウス



2022年受賞 駒木葬祭社屋

【主催・企画・運営】

特定非営利活動法人盛岡まち並み塾

【お問い合わせ先】

特定非営利活動法人盛岡まち並み塾 事務局

〒020-0827 岩手県盛岡市鉈屋町3番15号「大慈清水御休み処」内

TEL:019-656-1603 <https://www.machinamijuku.org/>

【発行】特定非営利活動法人盛岡まち並み塾

【発行日】2026年3月

※ 令和7年度盛岡市市民協働推進事業補助金活用事業により作成しました。

